



マツダ新報第十九卷第二號(昭和七年二月號)目次

住宅の照明に關する私案	京都帝大教授 藤井厚二	(二)
バイタライト・ランプをロードビルダーとしての電燈會社増收策懸賞論文當選發表	酒田町電氣部長 菊地幸次郎	(一一)
電燈從量供給による二つの考案	技師 東京電氣株式會社 土居巖井	(一七)
夜のスポーツ(其一)	事業部照明課 森永製菓株式會社 鐘ヶ江永松	(二二)
バイタライト・ランプの効力實驗報告	東京電氣株式會社 赤堀彌作	(二四)
昭和六年博覽會一束(上)	事業部電球課 編輯部	(二九)
ニュース		(二九)
照明		(三一)
製品		(三一)
ラデオ		(三二)
照明學校		(三三)
雜報		(三四)
海外		(三四)
水仙	近松秋江	(三六)
編輯後記に代へて		(四〇)

住宅の照明に關する私案

第九回照明講習會講演

京都帝大教授 藤 井 厚 二

只今御紹介に預りました藤井でございます。私は建築の方面に携つて居りますが、住宅建築に深い興味を持つて居ります。併し其の興味も色々のことを考案して、それを實際に造つて見ることにありまして、住宅の問題を議論することは至極好みません。従つて照明のことに就いて關さんから話をしろと云ふ仰せのあつた時に、御斷り致そうかと思ひましたが、幸に私案を實際に試みたもの、寫真などが少しありましたものですから、それ等を御覽に入れて可否の御判斷を願ひ、御賛成の場合には其の案を照明のことに御關係の深い皆さんによつて廣く御使用願ひたいと思ひます。それは兎も角もと



第一圖

取つては非常に幸のことで、將來住宅を設計する場合に役立ちますから、愚見を述べるのも宜くはないかと思ひます。



第二圖

其の意味で御迷惑でございませうが、暫く御清聴を煩したいと思ひます。

して、私案を改良する點に就いて、之は斯うしたら宜からうとかあした宜からうとか云ふことを、皆さんから御示し願へたら私に

建物には色々の種類がございまして、居住を目的として居る住宅の如きものもあり、教育を目的として居る學校圖書館の如きものもあり、娛樂慰安を目的として居る劇場活動寫真館の如きものもあり、目的が異なるに従つて建物の性質を異にして居ります。之等多種の建物の中で住宅が一番厄介なもので、今申上げるやうに居住を

目的として居りますから、感情的實用的兩方面の要求が極めて複雑で、住宅の設計をなす場合に基礎となる條件は他種の建物に於ける



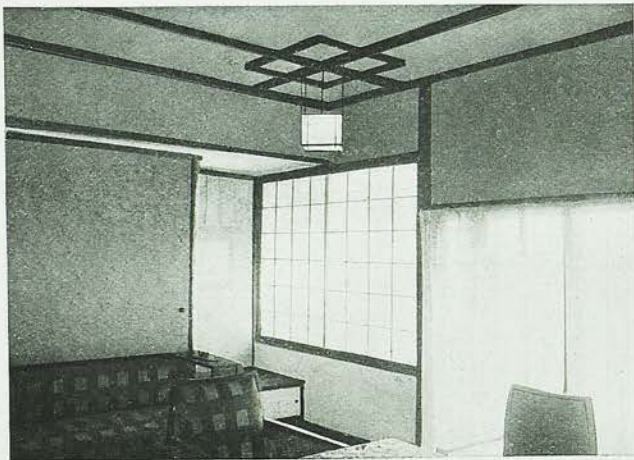
第 三 圖



第 四 圖

如く簡單ではありません。總ての方面に深い考慮を必要とします。例へば之れから御話しようとする住宅の照明に就て見ても、之を適

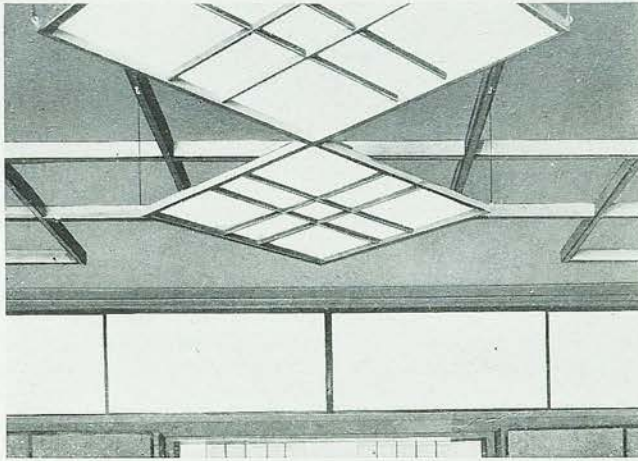
當に解決することは餘程困難で、製造工業を目的として居る工場に於ける照明の如く容易ではありません。殊に我國の住宅は歐米の影響を受けて、生活様式が非常に動搖して安定しない状態なので、一層の困難を伴ひます。



第 五 圖

住宅の照明に就いて述べるには、照明そのものの、理論を一應御話するのが順序かも知れませんが、既に皆さんは御承知のことでございますから、茲に建築と關聯した照明裝置の寫眞を御覽に入れて、こんな方法を試みて居るものもあると云ふ一つの案を提示したいと思ひます。それに就いては先づ住宅に對する鄙見の主要を述べねばなりません。我國では明治維新以後總ての事物が激變したので、居住に就いても生活様式及び其の他のことが舊來とは著しく相違して居ります。併し今後はさして甚しい變化が起らないで、此の状態が相當の長い期間繼續するのではないかと想像致します。座式の生活

と腰掛式の生活と云ふやうな問題に對しては、前者は次第に狭く後者は次第に廣く行はれること、思ひますが、趣味嗜好等に就いては著しい變化は起らないで、矢張り舊來吾々の望んで居つたやうなものを欲するのではないかと思ひます。それはどんなものであるかと申しますと、吾々は極く清楚なものを好むで、歐米人の求むるやうな非常に濃厚な趣味のものを欲するではありません。建築上の意匠にもそれが表はれて、瀟洒なさつぱりした氣持のものが造られて、騷々しい派手なものは望まれないのではないかと思ひます。例へば照明に就いて申しますと、カットグラスを通過した光の如き燦爛たるものを好まないで、柔かい落着いた氣持の光線を望むのではないかと思ひます。

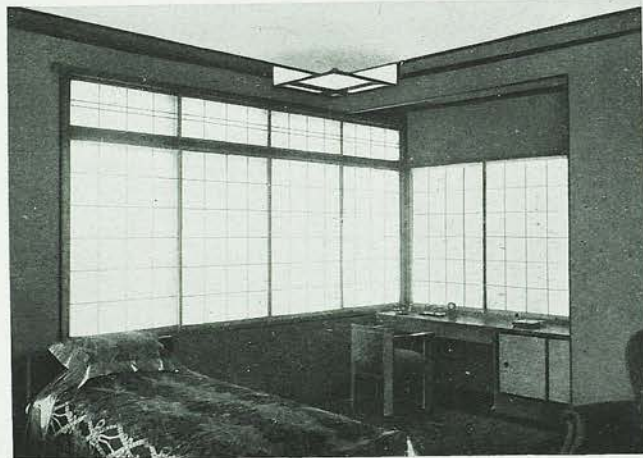


第六圖

その方法としては、間接照明による

種々の裝置もございませうが、私は最も容易に行ひ得て効果の多い方法としては和紙を透した光によることではないかと思ひます。

此の和紙を使用することは私の創案ではなくて、我國では舊來から行つて居る方法ですが、非常に氣持の宜いものですから廣く使用したらいと思ひます。曾て私が照明

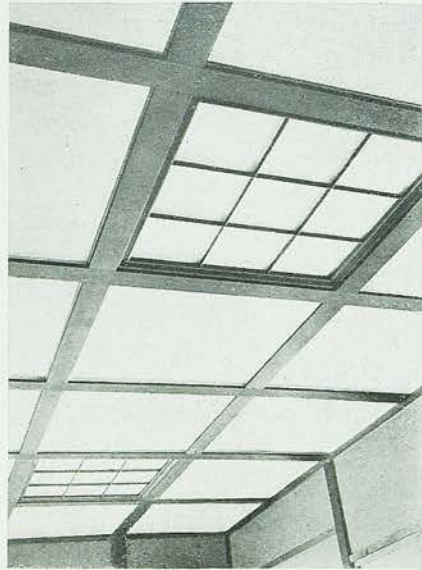


第七圖

に使用する和紙を擦り硝子などと比較して、散光率を調べたことがございます。擦り硝子にも色々ございまして、和紙にも色々ございまして。又擦り硝子にしても、新しいものと使用して汚れたものとは著しい相違がある

ことは申迄ありませんが、新しい材料に就いて實驗の結果の大體を御話致しますと、擦り硝子に直角に光線を擦らない硝子の面の方から當てて、反對の側に方向を變へないで硝子の面と直角に透過した光の強さを、今假に一〇〇となし、それに對して種々の角度をなす方向に透過する光線の強さを測定して見ますと、五度の相違がある場合には八二・四となり、十度の相違がある場合には四八・一となり、尙大なる角度の相違になると或程度までは五度増す毎に約半

分宛に減じます。即ち十度で四八・一のものが五度増して十五度では二四・八、二十度では其の約半分の一二・六、それから更に五度増して二十五度では六・二となり四十五度で一と減じます。即ち四十五度に散光するものは垂直に透過するもの、百分の一の強さしか

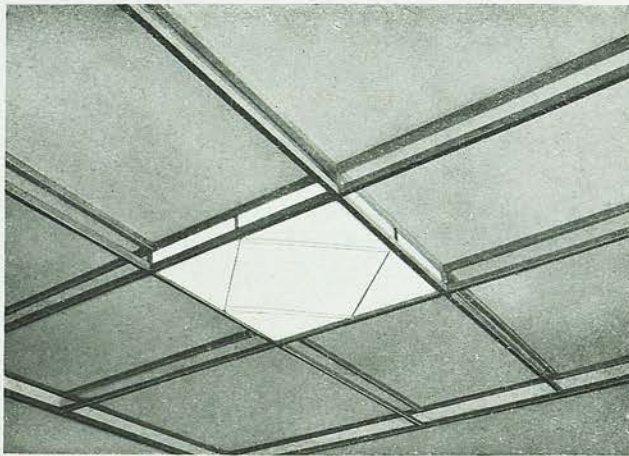


第 八 圖

ありません。之を障子紙に就いて調べて見ますと、一般に使用される障子紙であれば、先の如く其の面に直角に光を當て、透過して反對の側に方向を變へないで直角に出る光の強さを一〇〇とすれば、それに對して五度の相違をなすものは九六・三で擦り硝子に於て生ずるやうな甚しい減少はございません。更に角度が増しても同様に減少する程度は僅かで、四十五度の相違がある場合には三三・二で、六十度の相違がある場合には一九・五、七十度の相違がある場合には一五・八となり、七十五度に散光するものでも尙一〇と云ふ割合になつて居ります。先に述べた擦り硝子の場合には四十五度の相違で百分の一に減じたものが、障子紙では七十五度の相違で尙十分の

一はございます。

次に私が常に使用して居る薄い美濃紙に就いて申上げますと、前述のと同様に屈折しないで紙に直角に透過する光の強さを一〇〇とすれば、それと四十五度の角度をなす方向にあるものは一〇・七、即ち約十分の一となります。七十五度の角度をなす方向に於ては三・一です。即ち薄美濃紙の散光率は前の擦り硝子と障子紙との中間にあるものでございます。之等三者に於て夫々一〇〇と假定した

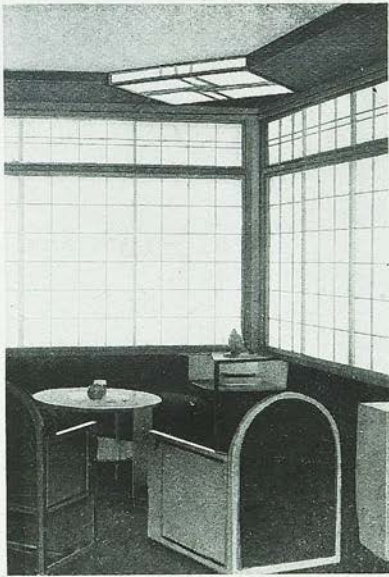


第 九 圖

直角に透過する光の強さに就いて比較すれば、障子紙が最も小で、薄美濃紙之に次ぎ、擦り硝子は頗る大ですが、散光率の大なるものを使用いたした方が落着氣分を醸することが出来るのは、晝間の採光に於て窓に硝子障子のみを嵌めた室内と紙障子を嵌めた室内とを比較すれば容易に諒解されます。我國の美術品の如きは散光によらねばよい効果を齎することが出来ないものが澤山あります。例へば舊來

の日本畫は軟かい光線で見られたいのではないかと思ひます。墨繪を洋風の室内にては鑑賞し得ないのは、周圍の色彩の華麗であることよりも之が主な理由ではないかと思ひます。我國では歐米諸國に比して緯度は低く太陽光線は強いので、採光上からも温度の調節上からも窓は小さくてよい筈ですが、多濕の爲めに通風を盛にせねばならないので、大なる窓を設けますから、障子紙の如き透過率は小でも散光率の大なるものを使用するのが得策です。夜間の電燈照明に於ても薄美濃紙を透過したる光によれば、間接照明によるも殆ど同様の効果を經濟的に齎すことを得て、簡單なよい方法であると思ひます。

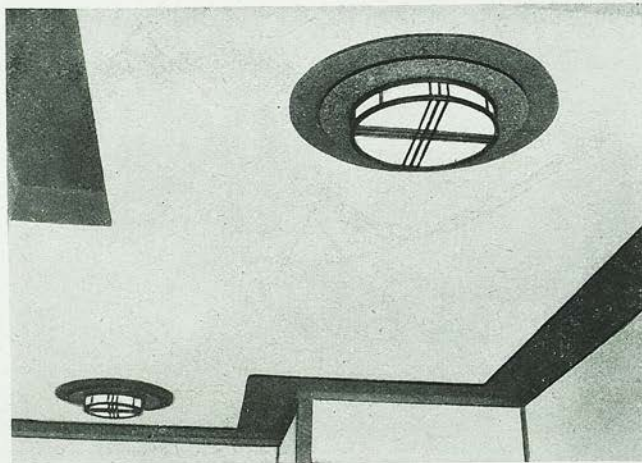
和紙を使ふにはどんな風に裝置したら宜いか、即ち先に述べた吾々の要求する住宅建築と關聯して如何に意匠したら宜いかと云ふこ



第二十圖

とに就いて申上げますと、二つに分けて考究せねばならないと思ひます。建物それ自身が我國では昔使用したことの無かつた新しい材

料によるもの即煉瓦造、鐵筋混凝土造の如き住宅に於ける場合と、舊來よりの木造住宅に於ける場合とに就いてです。但し木造建築



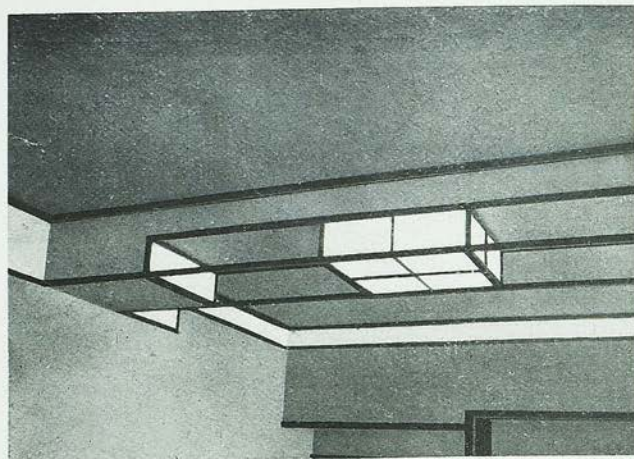
第十一圖

にも洋風の建方がありますが、之は意匠について前者に屬するもので、之等新しい建物に於ける照明の問題は比較的自由で容易に解決することが出来ますが、舊來の木造住宅では傳統的の様式があつて型が殆ど定つて居るだけに、意匠に餘り變化を求めることが出来

ないので中々困難です。従つて多くは單に天井よりぶら下げたコードの末端に電球と簡單なる形のセードとをとりつけて、如何にも止むを得ずとりつけて厄介物扱にして居る感があります。殊に茶室建築の如き場合には種々と意匠を他のものに就いては凝しますが、照明に關しては此の案を唯一の方法と考へ、晝間には之が天井より下がつて居るのが不快の感を與へるので、取りはづして夜間だけつるして居るのを見受けることもあります。併し斯の如き場合に紙を使

つて建築そのもの、意匠と合せて共に適當に考案すれば、氣持のよい照明が出来、晝間に於いても之が眼障にならないかと思ひます。歐米諸國でも、やつと近來建物と直接關聯して照明を考慮するやうになりまして、後に實際のものを御覽に入れますが、此の方法によれば極めて簡單に出来ることであると思ひます。

和紙を使用することは外國人には非常に不可思議に感ぜられるやうです。先年萬國工業大會に列席した外國人で、私の家を見せて呉

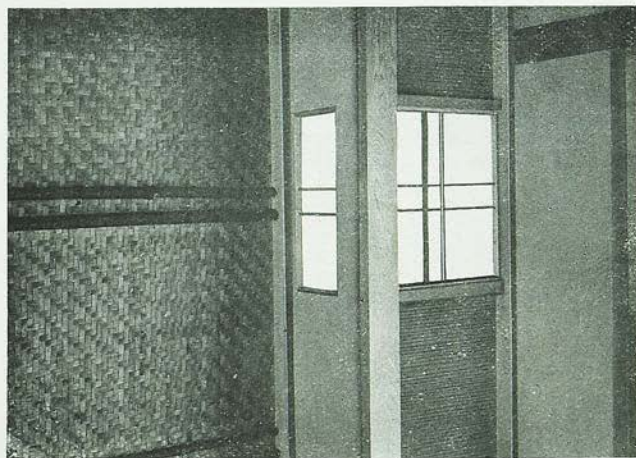


第十二圖

最も驚いたやうでした。紙は前にも申上げたやうに薄い美濃紙を使つて、埃を取り易くする爲め又紙を丈夫になす爲めに禁水を施し、

引いたのは紙を透した光を用ひて居ることでした。腰掛式の部屋にも硝子障子の内側に、カーテンをかけないで、紙障子を嵌めて居りますが、殊に夕方になつて點燈して紙を透しての光によつての照明を見た時には

場合に應じて欲する色（多くは淡黄色又に淡水色）に染めて使用して居ります。



第十三圖

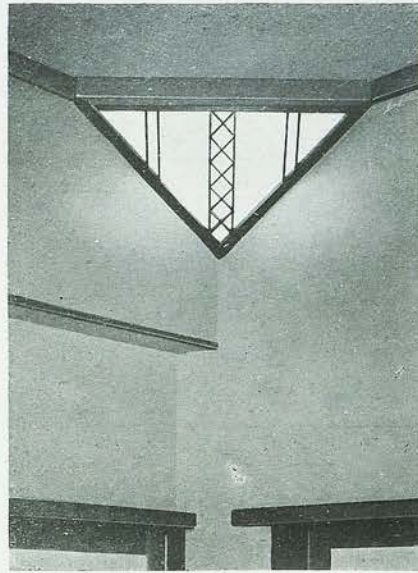
し、一年に一回或は二年に一回位です。

それで先づ薄美濃紙を透過した光はどんな感じであるかを實際に御覽に入れたいと思つて、茲に二三私が意匠し或は自ら造つた電気スタンドを持つて参りましたから、それ等を説明し次に考案したものの寫眞を御覽に入れ、此の講演を終りたいと思ひます。

最初に御覽に入れますのはこゝで拜借したもので、電気スタンドとして現在一般の家庭で卓上などに於て使用して居るものです。電

多量に使用する際には澁くときに顔料を入れて、特に薄い色紙に造れば適當なものが得られます。和紙の耐久力はそんなに悪いものでなく、張替の度数は使用の程度埃塵の多寡が非常に關係しますが、早くて半年に一回位です。私の家は郊外にあつて比較的長く使用

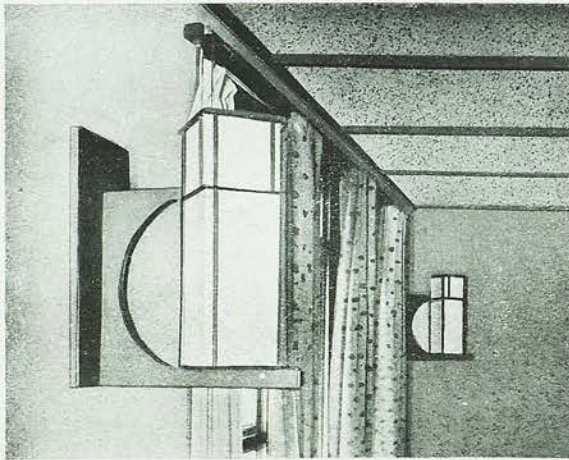
球が卓上から二三〇纏の高さにあるやうにして、其の周圍及び上部に薄い布にて造つた覆を用ひます。之も簡單でよい方法だと思ひま



第十四圖

すが、和紙を使ふのも非常に面白くはないかと思ひます。兩者と比較する爲めに先づ拜借したものに點燈して、其の後で和紙を使つたスタンドを御覽に入れます。(第一圖は前者、第二圖第三圖は後者で、卓上或は極めて小さい部屋の照明に使用する目的で造つたもの)意匠に就いては之(第一圖)の臺は金屬製ですから、自由の形に造ることが出来ます。材料は何を用ひても差支ない譯ですが、和風の建物即ち日本趣味の建物では溫柔の感を與へるものがよく調和します。尙和紙は硝子の如き冷硬の感を與へませんから、之を張付ける枠及び臺などは木材を用ひるのが最も適當だと思ひます。併し木材を使用する場合に困るのは曲面を造るのが困難であることです。但し建物それ自身が木材によつて造られ曲面を多く使ひませんから、甚しい不調和を感じません。和風の住宅では、室内は總て平面で區

劃され、變化を求むる爲めの凹凸も洋風建築の如く曲面によらず線形は殆ど使用しません。洋風の此の室に就いても御覽の如く水平の天井面と垂直の壁の面との交る所には複雑な曲面がありますが、和風の建物には之がありません。従つて天井に取付ける照明器具は複雑な曲面から出来上つて居るものよりも、平面で簡單に仕切られた形のものがよく調和します。此の如きスタンド(第二圖)と同様の意味から造つたものですが、木を使つて固苦しい感を與へ易いのは紙を受ける枠の一部が出隅に必要であることです。之(第二圖)ではそれを顧慮し



第十五圖

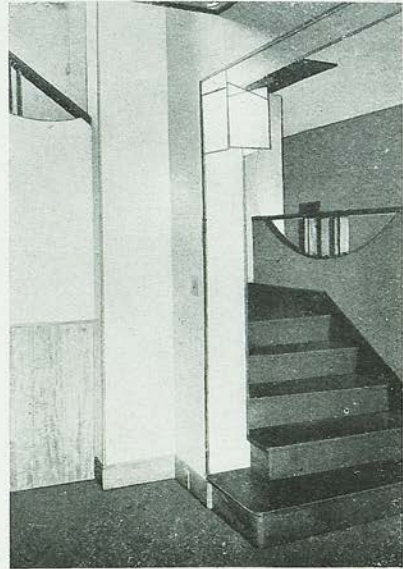
紙を張り、電球のとりついた臺の上に置いたものです。

次にスタンド以外のものは實物に就いて御覽に入れる譯には行きませんが、圖によつて御説明致します。

はそれを顧慮して、垂直の四隅の部分の枠は取去つて、紙を折つて枠の内側から張り中央の部分は外側から張つて、四隅に硬い感を與へないやうに努めました。こちらの方(第三圖)は竹を節の處から切つて其間をくり抜いて

幻燈映寫（以下主なるものゝみの説明）

第四圖は多くの家庭で行はれて居る方法の電球が天井より下がるコードの尖端に取付いて居る場合に、薄い美濃紙張のセードを使



第 十 六 圖

用したものです。建物は鐵筋混凝土造でございますが、木造に於ても同様であることは第五圖に示す通りです。電球の側面には紙を用いたゞ下面に紙障子の如きものを水平に裝置すれば第六圖の如きものです。之は天井から三本のコードを下けて尖端の電球は二つの

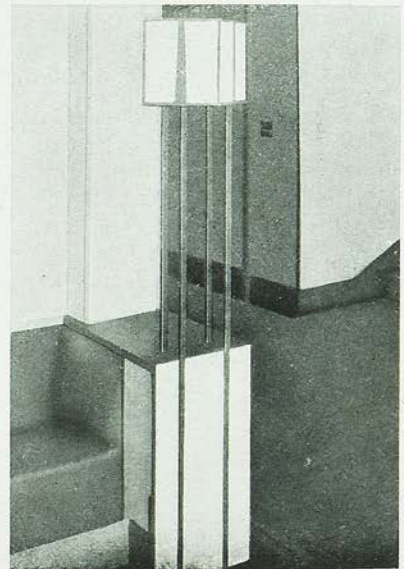


第 十 七 圖

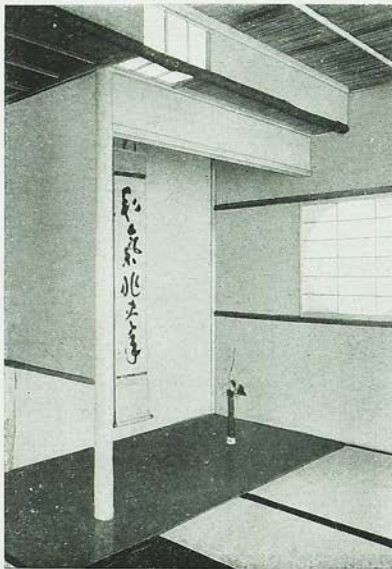
正方形が連續せる形の紙障子の各の中央にあるやうになしたものです。第七圖は障子の中央よりも片寄せた位置に電球を置いて、其の

側面の二方には紙を使用したものです。

第八圖は天井裏に電球を裝置し上部の光線は反射せしめ、電球の



第 十 八 圖



第 十 九 圖

尖端より約一握半乃至三握下に薄美濃紙の障子を嵌めたものです。この方法では天井面が暗いので、快感を與へない場合がありますから、之を防ぐには第九圖、第十圖或は第十一圖の如くなせばよい譯

でございます。

天井が水平でなくて、梁によつて凸凹のある場合に此の裝置を施すには、第十二圖の如くなせばよい譯です。之は梁の中央の下に裝置して、圖の左端は梁の背の高い部分です。

天井と壁との交る面を利用して裝置すれば第十三圖、第十四圖の如きものです。第十三圖は和風建築に於て、床脇の天井及び落掛土の小壁に紙障子を嵌めて、内部に電球を取付けたものです。第十四圖は鐵筋混凝土造の住宅で、直角に交る壁の二面と天井面との入隅に裝置したものです。壁面に取付けたるもの、意匠を示せば第十五圖、第十六圖で、フロアースタンド或は床より立てる場合の意匠を示せば第十七圖、第十八圖の如くです。先に述べた茶室建築に於ける照明は第十九圖の如きが一案で、之は爐の天井に裝置して、床の間の見返しの小壁にも紙障子を嵌めて、床の間をも照します。

藤井博士は建築界に於ても住宅の研究家として知られ、住宅問題で博士になられた最初の方だそうである。然してその學位論文も決して机上の空論ではなく、實際に御自分の家を建てらるゝこと五回に及んだ由で、その實際に即した研究論文であるから、實に得がたい貴重な資料と云はねばならぬ。

そして本誌にのせられた日本紙の種々の燈器も亦、その御研究のたまものにならなないのであつて、同博士の御宅のみならず、博士の御設計になる幾多の住宅に於ける御研究の

以上は照明に深い御關係のある皆さんが御考案になれば、まだまだ随分色々なものが出来るだらうと思ひます。私は最初に申上げたやうに照明に和紙を使用することに就いて講演をするのは、實は初めてでございますが、約二十年程使つて居ります。近來之が次第に廣く行はれて、或るホテルの食堂の照明に、第八圖の案に近いものを見受けたことがございます。京都で照明器具などを扱つて居る店に、セードの如きは硝子のみならず紙を使つたものをも見られるやうになり、東京でも百貨店に此の種の色んなものが多く陳列されてあり、可なり良い案のものが出来るやうになりました。併し考案すれば一層面白いものが出来るだらうと思ひますから、私の意見に共鳴して戴ければ、和紙を使つてみて、悪い點に御氣付になり或は變つた考案が出来た場合には、御知らせ願へば詢に結構で御さいます。切に希望致します。(終)

結果を述べられたものである。

日本紙を用ひた燈器の效果に就ては、藤井博士が詳しく述べられて居らるゝ通りで、誠に日本住宅に調和した照明裝置として、多くの人の共鳴する所であらうと思はれるが、唯實際に之を應用せんとする時、よく問題にされるのは、その能率であつて「氣分はいゝが暗いだらう」などと云ふ感をいだく人も少なくないのである。

小生たちも此點に一寸疑念をもち、且つ將來かゝる照明裝置が普及するやうになるとす

れば、その能率もよくしらべておかねばならないので、今回照明學校に於て種々の試験を行つたのである。

このため特に藤井博士に御愛用の薄美濃紙の御惠與を乞ひ、之を以て數種の燈器を作り、それを實際の日本座敷につけて、その照明能率を測定したのであるが、その結果は案外に能率のよいのに驚ろかされた。

此結果は目下整理中であるが、來る四月の工學大會に報告を出すし、猶又照明學會雜誌にも發表する豫定である。(關)

バイタライト・ランプの懸賞論文當選發表

本誌昨年九月號にてバイタライト・ランプをロードビルダーとしての電燈會社の増収策なる論文を募集致しましたところ、期日迄に心血をそがれた十三篇の應募を得ましたことは、弊社の最も光榮とするところであります。是等の御投稿は何れも目下多大の注目を惹いて居るバイタライト・ランプの普及宣傳のためによい指針であり、有力な參考となることと信ずるのであります。弊社は規定に従つて各専門家の嚴密な審査を請ひ茲に其の結果を發表することに致します。左に當選者諸氏の御芳名を掲げます。

一 等(一名) 該當するものなし。

二 等(二名)

バイタライト・ランプをロードビルダーとしての電燈會社増収策を論ず

○電燈株式會社 富岡 三郎氏

電燈會社の増収策とバイタライト・ランプ

東京電燈株式會社 鈴木 岩雄氏
東京中部營業所

三 等(八名)

バイタライト・ランプをロードビルダーとしての電燈會社増収策

金澤市電氣局 笹川 喜久雄氏
營業課業務係

バイタライト・ランプ取付實績に就て

南滿洲電氣株式會社 藤 井 忠一氏
電燈課

バイタライト・ランプをロードビルダーとしての増収策(勸誘計畫)

東邦電力株式會社 井 手 卯市氏
長崎支店營業係

バイタライト・ランプをロードビルダーとしての電燈會社増収策

仙臺市電氣水道 荒 喜 主 税氏
事業部營業課

バイタライト・ランプをロードビルダーとしての電燈會社増収策

中部電力株式會社 田 邊 謙治氏
豐橋營業所營業係

バイタライト・ランプをロードビルダーとしての電燈會社の増収策(勸誘中)

長野電燈株式會社 羽 下 新作氏
營業課員

バイタライト・ランプ勸誘計畫に就て

石岡電氣株式會社 芦 澤 重次郎氏
工務係

バイタライト・ランプをロードビルダーとしての電燈會社増収策

東京電燈株式會社 德 丸 久吉氏
東京中部營業所京橋出張所

等外佳作(三名)

バイタライト・ランプ勸誘案

東邦電力株式會社 小 杉 孝一氏
名古屋支店營業係

バイタライト・ランプの用途指導

熊本電氣株式會社 前 田 寅喜氏
營業課

バイタライト・ランプ勸誘計畫

東京電燈株式會社 増 田 虎太郎氏
濱松出張所内線係

電燈從量供給による二つの考案

酒田町電氣部長 菊地幸次郎

A、本町電氣事業開始當時に於て、既開業の

他の事業者の供給規程を参照し、電燈供給

料金に關する規定を定めたるも、逐次時代

の推移に適當する爲めの改正地方的色彩に

よる加減等を加へたる結果、本町に於ける

從量電燈料金は別項の如く、他の事業者の

規程に比較して頗る「ルーズ」なる様式に

變化したが、其の要旨は公營たる趣意に基

いて需要者の利便至上主義と使用電氣量に

對する正直なる取引の二項に歸するのであ

る。細目の條項は各施行年次を異にするも

需用電燈數の増減につき其施行事項の開始

が著しき影響を與へたる模様は顯れない。

即ち其の施行當初に於て之を宣傳材料とし

て勧誘を試みず、唯自然の成行に委せた爲

めであると思ふが、之が公營事業の商賣氣

がないと云ふ結果の發露とも謂ふことを得

べく、然かも目下の不景氣に際會して、敢

へて大なる減收減燈の苦痛を嘗めないと云

ふ偶然の結果を齎したことは、事業經營上

又一の參考になるべきことと思ふ。

B、從量供給の條項

一、料金(一燈當りに非ず使用總量に就て)

一キロワット時より廿五キロワット時迄

夜間共 一キロワット時につき

金 十 七 錢

廿五キロワット時超過五十キロワット時

迄

金 十 六 錢

五十キロワット時超過百キロワット時迄

金 十 五 錢

百キロワット時超過

金 十 四 錢

二、一燈當り最低責

任使用料金

晝夜間共に同じ

金 廿 六 錢

三、屋内電燈設備工

事費

一燈につき

金 壹 圓

四、電球は需要者負担とす、但し定額燈電

球の交換は同一價格にて賣渡す

例へば一〇燭光電球一個金十五錢の如し

五、五〇〇ワット以下の小電力器具を併用

することを得、但し最低責任使用料金は

第二項に、其料金は第一項に同じ

六、積算電力計は需用者の負担とす、但し

其の多數は飽海電燈所より一〇アンペア

のもの金十二圓五十錢にて購入せるもの

なり

第一表 電燈取付數(毎年度末に於ける數)

	總取付數	内 定額燈	内 從量燈	從量燈内譯
			夜 間	晝 夜 間
大正十二	一六、九七六	一五、三五八	一、六八八	五〇
十三	二二、二七二	一八、三六三	二、九〇九	二、八五三
十四	二二、三〇二	一九、五四四	三、七五七	二、八二九
昭和 一	二四、九五八	二〇、五七	四、三七一	一、四六
二	二六、九二二	二一、二六三	五、六四九	六〇五
三	二八、四五七	二一、一五九	七、二九八	一、四三九
四	三〇、四二〇	二一、五五三	八、八六八	二、一八七
五	三九、一八〇	二〇、一三三	九、〇五八	二、九七八

七、積算電力計の取付料は金一圓五十銭
八、夜間従量より晝夜間従量への變更は手数料金五十銭
九、従量計内の燈数の制限なし
一〇、従量計内の休燈を認めず

C、前記條項中七項を除けば總ての條項に於て幾分宛他の事業者の規程より緩和されて居ると思はる、が、就中夜間と晝夜間との區別撤廢、燈数の無制限、積算電力計の安價は注目に價する

此等の特典ある條項によりて従量燈は如何に需用増進しつゝあるか又ラヂオ、電気コテ、ホームミシン等の小電力を容易に安價に晝夜間使用し得らるゝ爲めの其の需用

第二表 電燈料金(一ヶ月平均値)

	總收入	內定額	內從量	從量燈收入	晝夜間
大正十二	七、八〇八・九四	七、〇三三・〇五	六四五・四四	六二〇・三三	三五・二二
十三	一〇、〇六六・九四	八、八六六・六五	一、二八二・二九	一、一九〇・一六	三八・一三
十四	一二、四四六・八九	一〇、四六四・三三	二、〇八二・四七	一、九一七・四一	九三・〇五
昭和 一	一三、五二七・八〇	一二、三三三・七六	二、一九四・〇四	二、一五八・三三	一三五・六九
二	一四、八八九・九一	一二、九三三・五九	二、九四六・三三	二、五七・九八	三七四・三三
三	一四、九九五・三五	一二、七〇〇・九	三、二九五・〇六	二、五〇六・六八	七八・三九
四	一五、二四三・五六	一二、四六六・二二	三、七七七・四四	二、五四四・九一	一、二五五・五三
五	一五、二六六・〇八	一二、四四五・五三	三、九一〇・五六	二、四二七・八四	一、五〇三・七三

の累進状態は、第一表に示すものによりて之を知ることを得べく又第二表は、晝夜間従量は其の收入に於て危惧すべきものに非ざるを示し、第三表は定額燈、夜間従量燈、晝夜間従量燈の自然の推移を充分に窺ふことを得る。即ち定額燈より従量燈へ、夜間従量より晝夜間従量へと次第に進むは定額燈の固定收入より稍々不安定なる従量燈へ移りて撞用を防止せんとする目的の一半を遂げ、次に晝

第三表 一燈當り料金(一ヶ月平均)

	全取付一燈當り收入	定額燈一燈當り收入	從量燈一燈當り收入	晝夜間燈一燈當り收入	晝夜間燈一燈當り收入
大正十二	四六・〇	四六・六	三九・九	三八・九	七〇・三
十三	四七・〇	四八・一	四二・二	四一・七	六六・一
十四	五三・四	五三・四	五三・五	五三・八	七三・六
昭和 一	五四・三	五四・五	五二・五	五一・〇	九二・九
二	五五・三	五六・一	五二・二	五一・〇	六二・八
三	五二・七	五五・五	四四・三	四三・八	五〇・六
四	五〇・二	五三・六	四四・四	三八・〇	五五・六
五	五一・九	五五・九	四三・三	三九・七	五〇・五

り従量に變更せしものは、五月迄定額燈收入に六月以降従量燈收入に計算せらるること。

夜間従量により收入増進の途を積極的に考慮せるものと解すべきである。

註、第二表に於て左の各項を参照せられた

一、燈数は總て年度末の現在数を上げた事

二、收入は年度内毎月合計を計上せること

例へば六月に定額よ

其の結果として第三表に於て年々定額燈より従量燈へ又夜間従量より晝夜間従量へ變更せるもの多きが故に、一燈當り收入に於て前表は定額燈は高率に、従量燈は低率に又夜間従量は高率に晝夜間従量は低率に顯れた傾向がある。

第一表に於て昭和四年度より同五年度總取付数の減少は、鐵道省酒田驛分を大口契約に變更せる結果之を削除せる爲である。

註(第三表)
一、定額燈に於て昭和三、四年度の收入減

第四表の一 需用燈數と最低責任使用料金との關係

燈 園 施	燈 數	總 戶 數	夜 間 從 量		晝 夜 間 從 量			
			內最低科 金を支拂 へる戸數	燈 數 計	內最低科 金を支拂 へる燈數	總 戶 數	內最低科 金を支拂 へる戸數	燈 數 計
一—五	三六	一〇一	九九五	四三八	三六	三	一三六	一二
六—一〇	二九四	一〇八	二二二九	八四〇	八七	一八	六八三	一四〇
一一—一五	六六	二七	八五四	三六一	三八	六	四八五	七三
一六—二〇	二〇	八	三五五	一四一	二二	四	三八二	七一
二一—二五	一八	六	四〇八	一三六	一五	四	三四〇	八九
二六—三〇	六	三	一七三	九〇	七	—	一九七	—
三一—三五	六	一	一九三	三一	五	二	一六三	六七
三六—四〇	二	—	七九	—	—	—	—	—
四一—四五	二	一	八五	四一	—	—	—	—
四六—五〇	一	—	四八	—	一	—	四七	—
五一—六〇	—	—	—	—	三	一	一六七	五三
六一—七〇	—	—	—	—	—	—	—	—
七一—八〇	—	—	—	—	一	—	七三	—
八一—九〇	—	—	—	—	—	—	—	—
九一—一〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
一〇一—一一〇	—	—	—	—	一	一	一〇九	一〇九
一一一—一二〇	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	六五一	二五五	五四七	二〇六八	二二五	三九	二七八三	六一四

第四表の二 需用燈數と最低責任使用料金との關係

燈 數	戶 數	夜間從量		晝夜間從量	
		總戶數	燈數計	總戶數	燈數計
一—五	三九	三	一〇五	一〇	三
六—一〇	三〇五	二四	二二三	一八四	八九
一一—一五	七五	六	九三七	七一	三八
一六—二〇	二二	一	三六九	一七	二三
二一—二五	二〇	二	四四五	四三	一四
二六—三〇	八	一	二二七	三〇	七
三一—三五	五	一	一六一	三二	五
三六—四〇	二	—	七九	—	二
四一—四五	—	—	四四	—	—
四六—五〇	一	—	四八	—	一
五一—六〇	—	—	—	—	—
六一—七〇	—	—	—	—	三
七一—八〇	—	—	—	—	一
八一—九〇	—	—	—	—	—
九一—一〇〇	—	—	—	—	—
一〇一—一一〇	—	—	—	—	一
一一一—一二〇	—	—	—	—	—
合計	六八七	六九	五六三	五二二	二二七
					三
					二八六四
					二三

は高燭光のものを従量燈へ移動せる爲めに
して、五年度の増額は小燭光街燈の減少
せるが爲なり。

二、従量燈は當初大なる需用のものより始
まり、漸次小電燈のものも加はるを以て
次第に低率となる傾向あり。

D、次に最低責任使用料金を廢止すべきか否
かに就いて考へて見たい。

第五表 季節別、町村別 最低責任使用料金調

最初最低責任使用料金を以て使用するも
のは、どの程度の電燈數を使用する需用者
に多いか又夜間、晝夜間の孰れの需用者に
多いかを、特に使用電力量の多い十一月と
少い六月を調査したのが第四表である。

E、更に最低責任使用料金制によらずして、
唯電力量の使用高に於てのみ料金を徴收せ
りと假定せば、其の減收高幾何なりやを季
節別、町村別及び年額の三様に調査したの
が第五表並に第六表である。

此の第六表に依れば最低責任使用料金を
撤廢することによりて、壹千圓強即ち全收
入の二・五八%の減收に過ぎぬ。然かも現

六		調 定 金 額		最低を超過せるものの料金		最低料金に より徴集せる金額		最低料金のもの に實使用電力量によ り計算せる金額		最低料金を廢 止しての減收額		戸總 需 用 數		最低料金を超 過せる戸數		最低料金に よる戸數	
月		三 一 七 四 ・ 二 五		二 四 四 一 ・ 五 二		七 三 〇 ・ 七 三		五 四 二 ・ 八 四		一 八 七 ・ 八 九		八 六 八		五 七 一		二 九 七	
内 町		二 四 九 四 ・ 五 七		二 〇 四 二 ・ 八 六		四 五 一 ・ 七 一		三 四 一 ・ 五 〇		一 一 〇 ・ 二 一		五 八 八		四 二 六		一 六 二	
九 町		六 七 七 ・ 六 八		三 九 八 ・ 六 六		二 七 九 ・ 〇 二		二 〇 一 ・ 三 四		七 七 ・ 六 八		二 八 〇		一 四 五		一 三 五	
十 一 月		四 九 二 〇 ・ 〇 〇		四 七 八 二 ・ 九 八		一 三 七 ・ 〇 二		一 〇 九 ・ 一 五		二 七 ・ 八 七		九 〇 五		八 三 七		六 八	
内 町		三 九 七 八 ・ 七 六		三 九 二 二 ・ 三 四		五 六 ・ 四 二		四 二 ・ 三 四		一 四 ・ 〇 八		六 〇 七		五 八 七		二 〇	
九 町		九 四 一 ・ 二 四		九 六 〇 ・ 六 四		八 〇 ・ 六 〇		六 六 ・ 八 一		一 三 ・ 七 九		二 九 八		二 五 〇		四 八	

第六表 一ヶ年間の統計

昭和五年度	延 燈 數	調 定 金 額	内最低料金に よる料金	最低のもの の實 使用電力量によ り計算せる料金	最低を廢止する 爲の減收額	調 定 額 に 對 す る 減 收 率
二七、八五〇・八〇	一〇二、九九六	四七、〇四六・七〇	四、九〇九・四二	三、六九五・五四	一、二一三・四八	二・五八%
譯 夜 間 内 晝 間	夜 間	二九、〇一四・〇七	四、〇二〇・九五	三、〇八一・四一	九三九・一四	三・二四
		一八、〇三二・六三	八八八・四七	六一四・一三	二七四・三四	一・五五

状を見るに最低責任使用料金を超過せざることを考へて使用するもの、一五燈以下の需要家に屢々發見せらる。即ち左様な目標を廢して自由使用とせば如何。

又店舗等に於て最低責任使用料金に縛られて増燈せず、時には「クラスター」等にて臨時に使用するものなどを發見することあり。之を増燈に更へしむるには最低責任

使用料金を廢止するに如かず。即ち需用者を何等の束縛をなさず必要の儘に使用せしむることは、優に前記の減收入を補填することを得るのみならず、供給者需用者共に満足する途に非るや。

F、晝夜間從量の存置は低壓配電線を特に一回線設くる必要を認め、其の重複せる費用を考慮打算すべきものなれども、晝夜間配

電は時代の必然的要求にして、之を阻止する能はざるものなるを以て、之が獎勵によりて打算的價値を増加せしむるの外なし。故に其の配電設備費と收入の關係は之に記録せず。

G、以上の諸表によりて晝夜間從量制の採用及び最低責任使用料金の存廢に對し、御參考となれば筆者の幸福とする所である。

阪急電鐵が愈よ綜合制實施の準備

— 今後二ヶ月間各營業所が精密なる調査 —

阪急電鐵會社電燈電力課では、昨春秋、料金の合理化、サービスの改善及び需要行詰り打開を目指して、斯種供給規程の中最も理想的供給制度とされてゐる電燈、電熱の綜合制供給を計畫し、既にその規程の成案も得て、いよいよ近く實施と云ふ間に至り、突然同社の職制改革が發表されて、前記綜合制供給實施に全努力を傾注して來た、直接の當事者たる安部課長が共榮部長に轉任することゝなつたので、勢ひこれが實施

は遷延されるの止むなき事情に立至つたが、安部氏の後を襲つた現宮崎課長も、前任者の衣鉢をついで、就任以來只管綜合制實施に關する諸般の調査、研究を續ける一方、佐藤營業部長も大いに乘氣となつてゐる事實に鑑み、此際同社の需要狀態が最も綜合制供給に理想的であること及びこの劃期的供給制度を從來の經緯からしても、斷然阪急によつて染手したいと云ふ意味から、近く愈々これが實施を決定するに至つた。

而してこの綜合制實施に當り、先づこれが準備行爲として、徹底的に同社の需要狀態殊に綜合制供給と密接な關係にある、從量需要及び電熱需要に就いて、今後二ヶ月に亘り各營業所員總動員の下に精密なる調査を遂げることゝなつた。

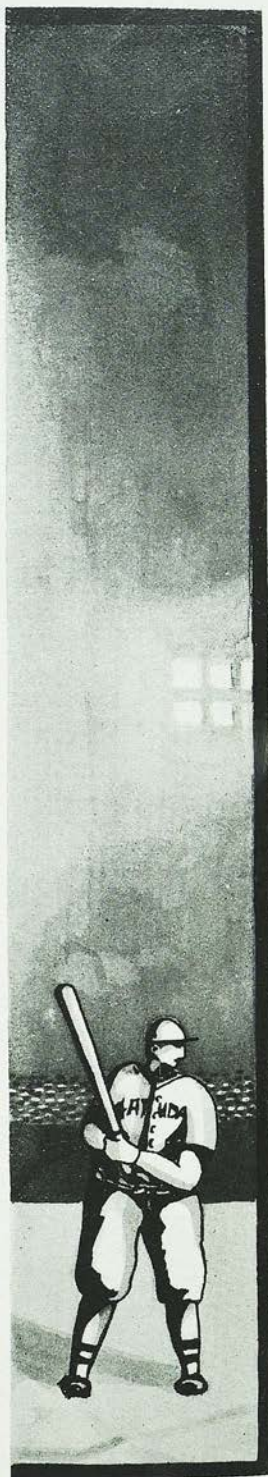
即ち現在同社の電燈供給狀態は、總燈數約二十八萬燈にして、この中從量燈は約十三萬燈、これが需要家數約三萬軒で、この三萬軒について個別的に各種電氣器具の使用及び分

昭和七年一月十九日

電氣新報より

夜のスポーツ (其一)

—— 野球場蹴球場の夜間照明 ——



一、夜のスポーツとは？

今から約十四五年前の事であつた。四國の片田舎では運動競技、つまり、スポーツと云ふものは、運動會で、ランニングをやる位のもので、今日の如き隆盛は勿論考へも及ばなかつた。偶々、暑中休暇を田舎に過した自分、退屈まぎれに、相手を探し出しては、當時の尖端競技、キャッチボールを盛んにやつたものである。流汗淋漓、ボトン、ボトンとやつて居るのを見た親爺『こら、そんな事をして、腹減らしをするもんぢやない。少し

畑でも耕たんか!!』と一喝されたことがある。

成程、田舎の親爺から見れば、野球のヤの字も解らぬ者から見れば、何の足しにもならんボールの投やりに流す汗よりも、一鍬の労働の方がはるかに、有難かつたにちがいない。そして今頃の青年と云ふものは、眞實ホントにつまらぬ、不生産的な、運動とか云ふ、西洋かぶれのした遊び事をやるものだなあと、慨嘆したにちがいない。

こうした時代も、夢と過ぎて、今は何と云つてもスポーツ時代、それこそ、文字通りの

東京電氣株式會社
事業部照明課

土 居 巖 井

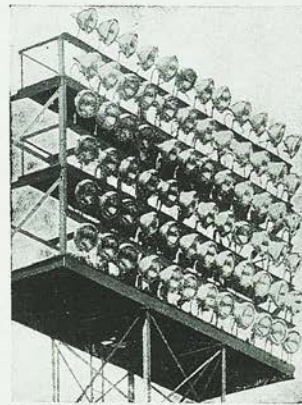
野球狂時代である。どんな田舎でも、津々浦浦に至る迄、春秋の六大學リーグ戦の季節にもなれば、『サイン極めて慎重、ツー、ストライク、スリーボール、最後の一球、最後の一投、……投けました、アツ、ヒット、ヒット……』等と云ふ松内アナウンサーの齒切のよい名句が、田舎の木々に木霊して居る。そして、一鍬、一鋤が、それにつれて、面白い獨特のモーションを續けて居る、と云ふ時代である。

常軌を逸すれば狂と云ふ、狂すれば即ち止



第1圖 1番新しいサンフランシスコ野球場の競技實況 (1,000ワット用投光器 308個を使用し内野 500ルクス、外野 300ルクスに照明される)

む。都會の熱狂ぶりは更に甚だしい。アメリカでは、野球のある日に勤人が觀戰する爲に一つの方法が講ぜられて居る。それは公然の祕密『叔母さんが死んだ』と云ふ事である。今日は叔母さんがなくなりましたので、葬式に行きますと云つて球場へ走る。ワールド、シリーズの時には、それこそ、毎年、毎年、數萬の叔母さんが死んだ事であらう。日本人は正直だ。公然の祕密にしる、それ程の不逞な嘘言は



第2圖 サンフランシスコ野球場の照明設備 (地上高さ120尺、72個の1000ワット用投光器を載せた鐵塔の圖)

云はないが、何かにつけての口實が亂れ飛ぶ。之は何とかしなくてはなるまい。曾てはスポーツ其ものを不生産的也と呼んだ田舎の親

爺も、スポーツを無用視した偉い人達も、この野球狂時代に狂する若人達の不生産を、何とかしなくてはならない時代に逢着した。時代は進む、常軌を逸すれば狂と云ふ、狂すれば即ち止む。これこそ、ほんとに何とかしなくてはなるまい。

實行の國、ビジネスの國、アメリカでは四、五年前から、既に其解決方法を實施して居る。それは夜のスポーツである。夜の野球夜の蹴球である。晝を欺く、電燈照明に依つて、野球もやれば、蹴球もやる。成程之は面白い。晝間の延長であると同時に、一方、限定された競技場の利用方法の一つでもある。

その時こそ、都會の勤人は、規定の時間迄、仕事を済ませて、悠々と、公然觀戰出来るし、田舎の青年は夜遊びをやめて、暖爐を囲みながら、『打ちました、打ちました、センターバック……』等と云ふ、ラヂオを、ゆくりなく聞き得るであらう。その時こそ『よく勵み、よく遊べ』と云ふ諺は、小供に對する教訓のみでは無しに、吾々活動人に對して、都會から田舎迄、徹底されるであらう。

此處まで、述べて來て始めて照明とスポーツと云ふ問題にぶつつかつた。こうした夜のスポーツ、夜の競技場照明を、今一度本論に入る前に、照明技術者として、正視して見る必要がある。

今後の照明は、一體、如何なる方面に進出しに行くものであらうか。之はどうしても、

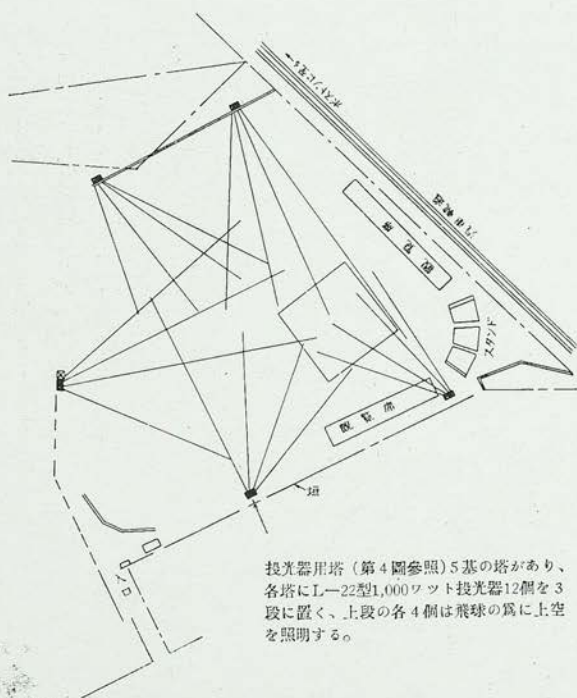
屋内より屋外へ、小電球より大電球へと進むものと思はれる。商店照明にしても、又は工場照明にしても、普及と云ふ意味に於て、大體行き渡つて居る。即ち、點くべき處には點き、平面的には随分發達して居る。唯、吾々照明技術者に、残された問題は、此の平面的な普及狀態を如何にして、良照明に改善して

行くか、如何にして立體的にもり立てて行くかと云ふ事である。

こうした、どつちかと云へば沈滞した照明界を、勃然として起たしめたのは屋外の街路照明であつた。大正十一年東京市銀座通りに街路照明が出来たのを導火線として、長野、函館等と之に續き、現在では都市に街路照明の無いのは、其都市の恥辱であるときへ云はれる迄になつて居る。都市と云へば街路照明、都市美の王座として主要街路に、燦然として其光輝を誇つて居る。

斯くして、屋内より屋外へ進出した當時の寵兒街路照明も、スピード時代に相適しい^{ズパ}發達の跡を見せて、早くも、屋内照明同様に其平面的な行きつまりを思はせる飽和状態が來て居るのではなからうか。かくて、吾が照明界は、此處に第二の照明、第二の新荒野を見出さなくてはならなかつた。そして、其處に待ち受けて居たものは、スポーツ界の躍進に依る夜の照明と、建築界の歐米化に依る外廓照明、及び電気サインであつた。これこそ第二の進路として、一脈の生氣を與へ、無より有へ、暗黒より照明へと、進むべき照明界の

創造であり再建であり開拓者であらう。此の意味に於て、夜のスポーツは、照明界に取つても、重大なる意義を持つ。是非とも實現し度いものの一つであり、當然やらなくてはならないものである。



投光器用塔(第4圖參照)5基の塔があり、各塔にL-22型1,000ワット投光器12個を3段に置く、上段の各4個は飛球の爲に上空を照明する。

第3圖 GE會社 Lynn Athletic Field に於ける世界最初の野球場照明設計圖

に、野球又は蹴球を夜の照明でやつて居る處が無い。従つて、是れから述べることは勢ひ外國の實例又は、二、三、日本球場に對する設計私案位のもので、實際の經驗を述べる事の出来ないのを御寛恕願ひ度い。

二、屋外競技場の照明

屋外競技場照明の濫觴は何と云つてもドルの國アメリカである。アメリカで一番最初に出来たものは、今から九年前一九二三年、同國GE會社のLynn Athletic Field で試験的にやつたのに始まる。勿論最初の

大變長い前書きを述べたが、此れだけの概念を御承知願つてから、夜のスポーツ、競技場の照明は、扱てどう云ふ風にすればよいかを、順次記載して行く事とする。

唯遺憾なことは、現在未だ日本では、實際

事でもあり、當時は蹴球は兎も角として、野球は、未だ實際上難色があつた時代の事であるので、其設備も貧弱であつたが、現在では着々と改良が加へられ、同國內でGE會社が設計した處だけでも、野球場が二七ヶ所、蹴

球場が九ヶ所、其使用電力合計一萬キロワットに達して居る。アメリカのみでは無い。ブラジルのリオデジャネイロ、及びバス・コ・ダガマ等にも堂々と其設備が完成されて居る。

然し此處に疑問が残るのは、

一、一體どの位の経費がかかるか。

二、そんな莫大な費用をかけて、收支償ひ得るだらうか。

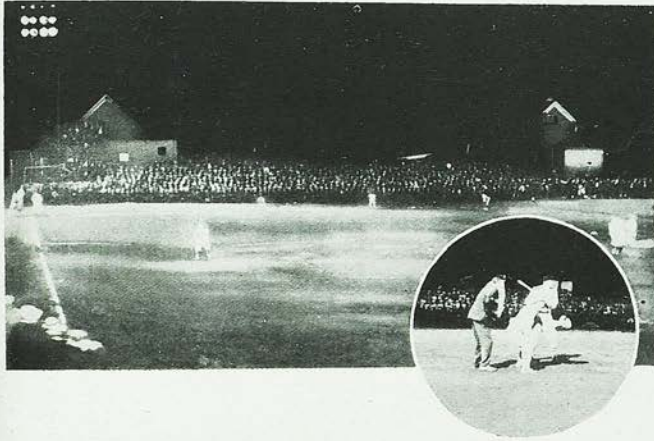
三、夜の照明で蹴球はともかくとして、實際野球が出来たらうか。

の三つである。

第一の疑問は、入場料を取らない學校の球場はともかくとして、相當の設備をして、相當の野球、又は蹴球をやる場所では、其球場の位置及び規模、又は其他の條件にもよる



第4圖 同球場に於ける最初の木塔(地上高さ47尺)



第5圖 同球場に於ける最初の試合状況

が、大體、野球場で、四、五萬圓から一〇萬圓位迄、蹴球場で二、三萬圓から六、七萬圓位はかかる様である。勿論、照明器具、配電設備、鐵塔及び工事、其他の費用全部を加へたものであるが、相當莫大な費用が掛る事が解る。尤も、之も球場の建設當時から計劃し建築工事と同時に設備する様にすれば、遙かに其費用を減じ得るであらう。

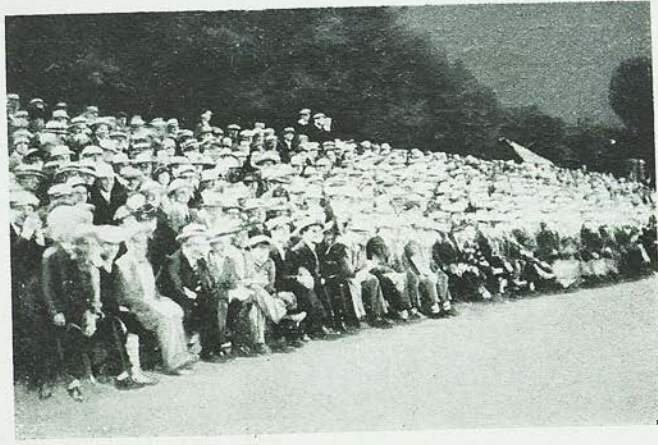
次に入場者である。果してこれ程の費用を



第6圖 同試合に於ける選手達

投じて、入場者があるだらうか。收支償ひ得るだらうか、の疑問である。之は野球が、純然たる職業になつて居るアメリカと、未だ之が學生スポーツの粹である日本とは、其觀方が根本的に異なるが、興業的にしても、又は非興業的にしても、實際やつて見た結果は、晝よりも、夜の方が遙かに入場者数が多い事が判明した。それは、前にも述べた通り、晝は何かと用事があり、多くの人々は活

動して居るが、夜は割合に暇である。殊に、何處の國でも野球シーズンと云へば、晝よりも夜の方が観衆に氣持ちのよい氣候となつて居る。



第 7 圖 同 球 場 に 於 ける 観 衆

五年前の一九二七年頃、野球場照明の發達時代に、アメリカの某誌が發表した處に依ると、夜のスポーツは晝よりも大體四・五倍位の入場者がある事を報じて居る。即ち蹴球では、一九二七年の Drake Simpson 競技場で、

二、八〇〇名が八、二〇〇名に、Darke Grinnell 競技場で一躍二二、〇〇〇名に増加して居る。野球では Syracuse-Hobart 球場で、四、〇〇〇名が、二二、〇〇〇名に Washington Drake 球場で、五、〇〇〇名が、一六、〇〇〇名に増加して居る。五年前の記録であり、野球場の照明は未だ發達の緒に着いたばかりの時の記事であるので、日本の大野球場、明治神宮の入場者数が五萬又は六萬等と云ふ大規模のものに比べると割合に小さい數字である。然し現在では、サンフランシスコ野球場の如く一二五萬弗を投じたものもあり、大野球場が競つて、之を實施して居るので、其入場者増加数も亦大變なものであらう。こんな状態であるから、例令、其設備費に數萬圓を投じて、其償却は、計算する迄も無く割合に容易である。

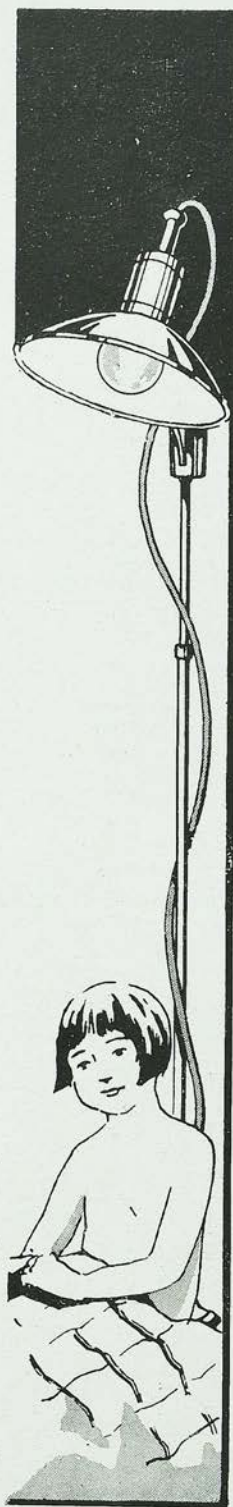
尙昨年來朝した、米國職業野球團の監督、ハンター氏の言を拜借すると、『入場者の増加割合は、最低晝の八〇％位であらう。未だワールド・シリーズの如き大試合は夜行ふ事に各方面の事情が許さないが、普通大學のリーグ戦又はA級リーグ戦は、盛に夜やつて居る』との事であつた。

次には、之は主としてプレーヤーから起る疑問であるが、實際、夜の照明で野球が出来るか、と云ふ事である。之は蹴球はともかくとして、野球に對しては多くのスポーツマンがほとんどすべて、有して居ると云つてよい。しかし之に對する回答は簡明である。即ち、夜の照明を嚴密な意味で、晝の状態と比較すれば、之は、勿論晝の方が優れて居る。何と云つても太陽は偉大である。電球は、それこそ九牛の一毛にも匹敵しない。然し夜の照明も、其技術と其設備さへ宜敷ければ、晝と殆んど同様に充分に競技し得られる。まして、其他の條件は、夜の方が晝よりもかへつて優れて居ると云ふ點に於て、夜の照明の價值がある。

之に就ても、我國野球界の元老橋戸頑鐵氏のアメリカ野球行脚歸朝談を拜借する。『自分が夜の競技を見たのは、△△球場（聞き洩しました）であつた。自ら競技したのではないが、見て居る者の感じは、まるで晝間とちつとも變らない。あれならば、野球でも蹴球でも充分出来るであらう』。

之で、スポーツ照明に對する疑問も大體解けた。次號から野球場照明の實際及び、其設計方法に就いて述べる事とする。

パイタライト・ランプの効力實驗報告



森永製菓株式會社
塚口工場電氣係

鐘ヶ江永松

拜啓

先達來種々御配慮を願ひまして恐れ入ります。時に私は以前にも貴下宛御禮狀を差上しました通り、愚妻の病氣に際し御社のパイタライトランプを照射致しまして、御蔭様にて只今全快致しました。その後醫師より話を聞き傳へて皆様が尋ねて見えますので、家内とも相談の結果、之の實驗結果を公にして、同病者の福音にしたいと存じまして、此の原稿を同封御送り致す次第であります。希はくば貴社マツダ新報誌上に御發表あらん事を願ふ次第であります。

パイタライト・ランプの學術的價値は已に識者間に十分悉知された事實で、今更諫々する迄ありませんが、之を實際疾病に應用した際の實驗の結果を御報告申上げ、病者が其の恩恵に浴せん事を望みます。

最初紫外線に對する私の見解は、我が國に於ては左程の必要を認めませんでした。その理由は我國では歐洲の天候に比して十分豊富に太陽に接し得る事と、我々日本人の生活は洋服のやうな身體に密着した服裝を用ひず、空氣の流通のよい和服を用ひ、密閉式の洋館よりは日本建が十分に太陽に親しめる事を認めたからであります。

然るに偶々愚妻が昭和五年六月中旬急激な腹痛を訴へ、尼ヶ崎の南川産婦人科に診察を乞ふた所が、婦人病でなくて内科的の疾患である故、内科醫師に紹介して頂く事となり、近所の今井醫師(兵庫縣川邊郡小田村)に診察を受けました。處が果して腹膜炎との事で、而も太陽光線浴を奨められました。當時若干

の腹水を認むるとの事でありました。其の頃の阪急電鐵の電燈電力課に於てパイタライト・ランプの宣傳賣出中であつたので、早速之を買求め添附してある文獻を一讀して愈照射をして見ました。其頃患者は非常に衰弱して然も食物を多く食べられず、食べると疼痛を覺えると云ふ様な次第でありました。最初二三回は、目まいがした様でありました。それから咽喉がカラ／＼になつて流汗甚だしく一定時間照射したら、其ま、二十分間位安臥させました。それは非常に疲れるからであります。食餌療法として醫師と相談して野菜スープを與へましたが、之は照射直後咽喉の渴を訴へる時に與へました。漸次照射時間を延して行つた處が、患部の下腹部の色が、次第に黒く

なつて皮がはけました。患者は益々氣分がよくなつて、之の照射を終れば丁度風呂に入つた時の様な氣持になると云つて居りました。

注射は隔日に打つて頂いて居りましたが、一週間程で患部の疼痛は去りました。之に力を得て愈々照射時間を延長して、患者の氣分に委せて嫌になる迄かける事にしました。

最初一週間位は文獻の通り行ひましたが、其後は本人委せとしました。然も野菜スーブは漸次量を増して行きました。營養の事に就ては醫師に相談をしましたら、本人の好きな物なら何でもよろしい。但し不消化物は不可との事で之も本人委せとしました。三週間程したら腹水が無くなつたとの事で、今井醫師が今更乍ら首を傾けて感心された想です。患者は益々力を得て時には一時間以上かけた時もあった位熱心にやつて居りました。照射の時は安樂椅子に仰臥して、照射後其のまゝ眠れる様な工合に致しました。七月八月と二ヶ月したら見違へる程顔の色もよくなり、其の代り下腹部はひきがへるの脊の様に荒れて、眞黒になつて氣味悪い様でした。九月末には看病に來て呉れた母も歸る事になり、此の調子ならば今後一二ヶ月で十分全快の見込がつか

きました。その頃になりましたら醫師の方が非常に乘氣になつて益々激勵して呉れましたので、私も非常に得意になる事を得ましたし又一面に於て其効力に驚いた次第です。それで紫外線に對する見聞をやつて見度くなりまして、大阪の大仁のマツダの出張所へ行つて、太陽燈による物質鑑定の実験をやつて見た事もありました。

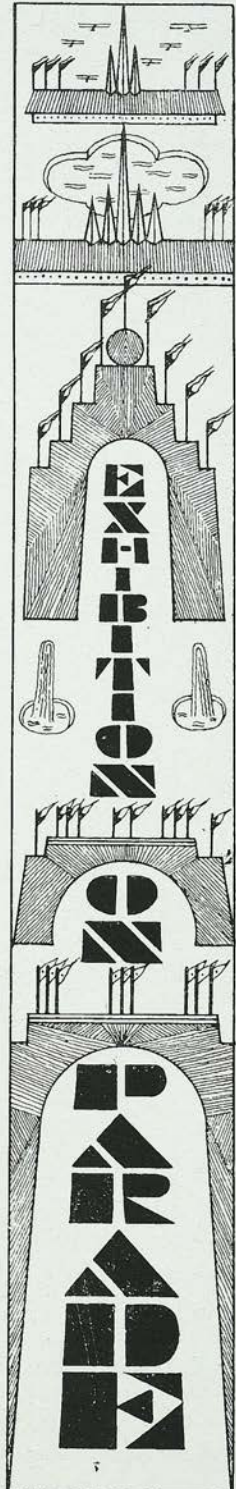
患者は其後愈々丈夫になつて十一月初から家事にたづさわられるやうになりました。而し照射は毎日が、さす行つて居るので、今照射面を指でかいてみますと七つ八つの子供の荒れた手の甲をかけた時の様に、爪痕のつく様に皮膚が丈夫になつて居つて、而も例年ならば既に風邪をひく頃であるのに、今年は未だ風邪もひきません。

此頃では私も自分の體に研究して見度くなりまして、浴後三〇分照射して居ります。そして今年の冬はオーバー無しで暮して見る考へで、今日までずつと通して來て居ります。果して皮膚が丈夫になつて風邪にかゝらなくなり得るや否やは、今後の實驗に待たなくてはならないと思ひます。私共の之の實驗を醫師より聞き傳へて、見に來られた方が三人程

ありましたので、ありのまゝをお話したところ早速翌日から實行されて居るとのことです。大阪の方に知人があつて、その細君が佝僂病にかゝつたので、大學病院に入院して居りましたが、先日退院され其時醫師より太陽光線浴を奨められたので、私に相談に見えたので、私の意見を述べて之又早速實行されて居られます。

私と致しましては、之のバイタライト・ランプの出現を非常に感謝すると同時に、今井醫師の慧眼と御研究心の強烈なる事に深甚の感謝を捧げるものであります。尙今井醫院の本院はずつと以前から太陽燈の設備がしてあります。

次に本記述最初に書いた通り、私の紫外線浴 unnecessary は放擲しなければならなくなりました。即ち私の考は健康體の人の場合及び特殊の土地の人の場合のみを考へたのでありまして、冬日光の光線の不足する場合或は患者の移動困難な時、又、此頃のやうにビルディング生活者の激増した事などを考へて見ますと、自分の欲する時、直に日光浴をなし得ない事情にある人達の事を考へなかつたから、間違て居つたのであります。



昭和六年博覧會一束

(上)

凡ゆる意味に於て、また凡ゆる方面に於て昭和六年は多事多端であつた。博覧會や展覧會もまた御他閑に洩れず、その開催された数は頗る多く、吾社が出品参加した博覧會や展覧會のみでも三十有餘の多數に達したのである。夫等のうち一部は本誌ニュース欄に既に掲載して、讀者諸氏にお知らせしたのであるが、茲に夫等の全部をまとめて、極く簡単に記載し讀者諸氏への御報告を兼ね、且つ本社の昨年内の出品博覧會並に展覧會の記録としやう。

松坂屋ラヂオ展覧會

松坂屋主催のラヂオ展覧會は、日本放送協會關東支部、三共電氣株式會社及び我社後援のもとに、上野松坂屋の中二階催物場で、二月八日より

り同月十三日まで一週間開催されたのであつた。

此の展覧會への我社の出品は、サイモトロンU X 二二六、同U Y 二二七、同U Y 二二四等の製作工程を示す實物見本、大型發振用の眞空管、整流用眞空管、飛行機用の眞空管、受信用眞空管一揃等各種サイモトロンを始め、ラヂオ用眞空管の發達を示す表、受信球需要の趨勢を示す表、テレビジョンに使用するネオンランプ、ブラウン管、各種光電管等の他に、先般我社で發賣した『オートラムセツト』であつた。

オートラムセツトは此の展覧會開催の少し前に、我社研究所で漸く完成したもので、當時は赤外線利用の自働警報器と稱してゐた。これは觀衆の興味を呼んで最も人氣を集めた

ものであつた。

J O A K では會期中連日場内にラヂオ相談所を設けて一般ラヂオファンの便利を計り、又テレビジョンを出品して會場を賑はしてゐた。

白木屋警察展覧會

此の展覧會は警視廳の肝入りで白木屋の主催したもので、日本橋安又

點の同店五階に二月十四日より三月五日まで二十日間開催された。時代の風潮に順應した、所謂獵奇趣味を多分に含んだもので、最初は犯罪科學展覧會と云ふ名前をつける豫定だったがとて、頗る人氣を博し二週間の豫定を二十日間に延期した。

我社では物質鑑識用の太陽燈を出品して、各種物質の鑑識、改竄文書の判別等の實驗を行つた。

生きた廣告の博覧會

生きた廣告の博覧會は東京日日新聞社主催のもとに三月十四日より同月廿七日まで二週間、上野松坂屋六階の大催物場及びショウ・ウキンドウ、地階地下鐵よりの地下道に面したショウ・ウキンドウ等を會場として開かれた。

參加商店會社はいづれも本邦廣告宣傳界の雄者揃で、その數六十有餘に達し、さながら廣告の粹を一堂に蒐めたかの感があつた。廣告宣傳の時代を劃してゐる現時、この優秀廣告は各自の廣告宣傳への好參考資料として見逃す可らざるものであつて、連日觀衆は押すな押すなの大盛況を示してゐた。

我社では電氣サインの最尖端を示

東京電氣株式會社
事業部電球課

赤

堀

彌

作



全國産業博第一會場の門

全國産業博覽會

すためネットサインの模型を出品した。ネットサインには、内面着色の中型電球が使用され、ネオサイン萬能と云った様な、ネオン管の多い場内では出色のものであつた。尙背景の中にはカラーライトを配して新製品カラーライトの紹介をなした。

本博覽會に於て審査の結果、我社は東日杯を獲得した。



廣告博の我社出品

此の博覽會は三月十五日より五月八日まで五十五日間、濱松市主催のもとに同市に開催されたもので、名譽總裁としては徳川公爵の名が列せられ、昨年内の博覽會としては大規模の部に屬するものであつた。會場は東會場が同市元濱町に西會場が同市鴨江町に設けられ、東西の二會場に分たれてゐた。



全國産業博第二會場の正門

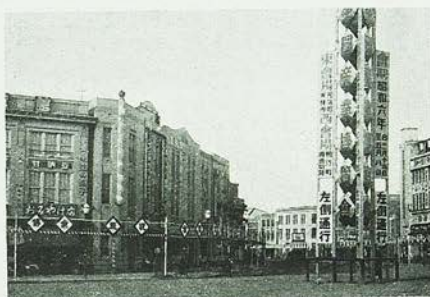
我が社の出品は産業館の中に陳列され、出品物はマツダランプ各種、受信用サイモトロン各種、大型發振用サイモトロン、ネオンランプ、螢光燈、水銀避雷器、積算電力計、電流制限器、配線器具各種、パイタライトランプ、光電管、ブラウン管、テレビジョン用ネオンランプ等であつた。



全國産業博我社の陳列

された他、優良國産品質及び感謝狀

た。就中本邦最大の電球、本社特製の一〇キロワット電球は、觀衆驚異の的となつてゐた。我社では此の博覽會で最高の名譽ある功勞賞を授與



濱松驛前に立てられた廣告塔

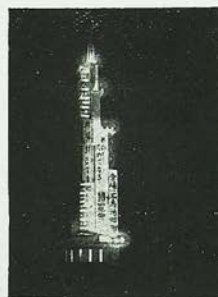
第三回化學工業博覽會

を受領した。

第三回化學工業博覽會は、社團法人化學工業協會主催のもとに、三月二十日より四月末日まで六週間、上



第三回化學工業博我社の陳列



上野山下の化學博の塔

野公園不忍池畔に於て開催された。畏くも久通宮朝融王殿下を總裁に戴き、清浦奎吾伯が副總裁を承つた本博覽會は出品總數萬餘に達し、我が國産の化學工業品の粹を蒐めたもの

で頗る盛んなものであつた。大正七年に第一回化學工業博覧會が開催せられて以來、我が國の化學工業の進歩發達は非常なものであつて、今回の出品物が殆んど全部特許發明品であることは、誠に心強く感ずるところであつた。

我社の出品はマツダランプ各種、受信用發振用整流用の大小各種のサイモトロン、水銀避雷器、テレットス絶縁體、ダンナー硝子管、ネオンランプ、螢光燈、光電管、テコライト製品、カラーライト製品、カドミウム標準電池、分析用化學工業用弗酸各種、弗化アンモニウム等であつたが、これに對しマツダランプ及びサイモトロンに就ては最高の名譽賞を、弗酸に對しては進歩賞を授與されたのであつた。

静岡ラヂオ展覽會

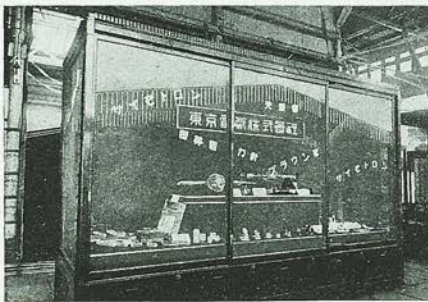
静岡市に開かれたラヂオ展覽會はJOPKの開局を記念して、静岡民友新聞社主催のもとに開かれたもので、會期は三月廿一日より廿七日までの一週間であつた。會場は静岡市内の静岡物産陳列館の樓上で、我社の出品物は受信用のサイモトロン發振用の大型サイモトロン、オリオン受信機、カナリヤ受信機、オート

ラムセット、オートレー等であつたが、いづれも同地のラヂオファンに取つて物珍しい物揃で、連日好評を博してゐた。

尙同展覽會にはJOPKから、我社のセレミンが出品され、頗る人氣を煽つてゐた。

精密機械器具展覽會

國產振興の基礎は産業の合理化であり、産業合理化の鍵は精密機器が握るとのモットーから、社團法人火兵學會が主催して、商工、陸軍、海



精密機械器具展我社の陳列

軍、文部の四省並に東京府、東京市等の後援のもとに、三月廿八日より四月十三日まで上野公園兩大師前の東京博物館分館内に、國產振興精密



精密機械器具展我社實演場

機械器具展覽會が開催された。

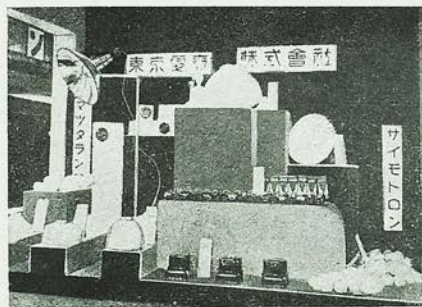
此の展覽會の出品物は殆んど全部が國産品の精密機械器具で、頗る學術的な意義深いものが陳列されてゐたので、學者や専門家の觀覽者の數は非常なもので、小規模とは云へ最も有意義な展覽會であつた。

我社では電球、サイモトロン、カドミウム標準電池、光電管、テレットス絶縁體、X線管球、ジャパニックス等を陳列した他、SOS警報機、オートレー（電燈自動點滅裝置）オートラムセット（赤外線應用自動警報裝置）等の實驗を、一般觀衆にせしめる様會場に設置した。

國產振興博覽會

國產振興博覽會は、鹿兒島商工會

議所主催、鹿兒島縣、鹿兒島市、鹿兒島朝日新聞社、鹿兒島新聞社等の後援のもとに、四月一日より五月十五日まで鹿兒島市鴨池遊園地に於て開催された。



鹿兒島市の國產振興博覽會我社の陳列

我社はマツダランプ各種、サイモトロン各種、積算電力計、パイタライトランプ、各種照明器具等を出品陳列した。我社は此の博覽會で優秀國產振興品賞を授與された。

東京市電氣展覽會

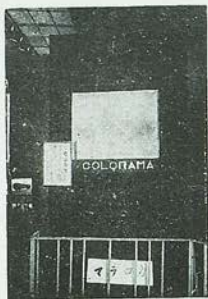
東京市電氣局の創業以來昨年は二十周年に當つたので、創業二十周年記念の催物として『市電展覽會』が五月七日より同月十七日まで十一日間東京市電氣局主催で開催された。會場は東京市日本橋區駿河町の三越



三越市電展入口

本店七階のギャラリーの全部を使用して、種々の統計圖表や東京市内電車の變遷を示す模型、その他電氣に關係ある種々の物が陳列された。

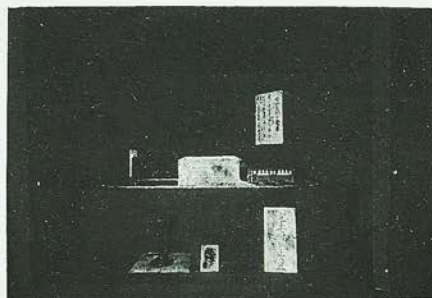
我社では最新式の照明方法であるコロラマを始めとして、次の如きものを出したが、いづれも興味本位の物ばかりであつた。



我社出品のコロラマ

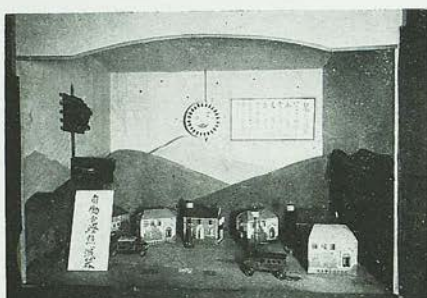
呼び止める電車。レールの上を走つて居る電車に向つて、『止れ！』と叫ぶと電車停留所のシグナルは赤色になつて、電車は停留所でビタリと止り、『進め！』と號令するとシグナルのランプは青になり電車は再び動き始めると云ふ装置。

電燈自動點滅器。現在我社でオートレーと命名して發賣してゐる光電



呼び止める電車

管利用裝置を、興味本位に應用したもので、ハンドルを廻すとその廻す方向によつて太陽が上下し、太陽が降ると共に抵抗がはいつて次第に

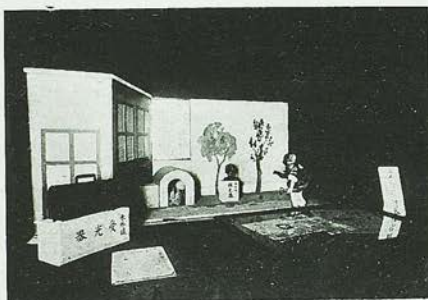


電燈自動點滅器

暗くなる。すると左側の電柱に裝置されたオートレーは、或一定の暗さになると自動的に電燈のスキッチがはいつて、家や自動車のヘッドライトやボールヘッドに電燈が點火されて、逆に太陽が昇ると夫等の明りは消える仕組。

お釋迦様電球。お釋迦様に甘茶をかけることから、洒落た名前で水を掛けると、その中の電球が點火する仕組のもの。

盜難防止警報機。オートタラムセツトの使用を面白く例示したもので、



盜難防止警報器

ハンドルを廻すと、泥棒の人形が、しのび寄り家に近づくと、オートタラムセツトの赤外線を遮斷してベルが鳴り屋内に明りがつき、泥棒は驚い

て逃げ去る、此の頃になつて漸く犬小屋の犬が飛び出すと云ふ裝置。
太陽燈仕占。物質鑑識用の太陽燈を使用して、普通光線で白紙と見えるカードを十數枚作り、これを太陽燈の下に持つてゆくと、種々の運命判斷の仕占となる。

吹消す電球。スタンドについて居る電球を強く吹くと、點火されてゐた電球は消え、間もなく再び點火される。

達摩電球。起き上り小坊師の達摩さんに手をふれると、眼に裝置された電球が點滅される。

以上の他に本社製作の五キロワット電球、一〇キロワット電球を始め各種電球及び家庭電氣器具等を出品陳列したのであるが、前記の興味本位のものは頗る好評で、人の黒山が出来係員は整理に忙殺されてゐた。

電氣サイン展覽會

前掲の市電展と同様に東京市電氣局の創業二十周年紀念事業の一つとして、五月十日より六月十日まで日比谷公園に開催された『電氣サイン展覽會』は、参加看板數二十七基に達し頗る盛況であつた。

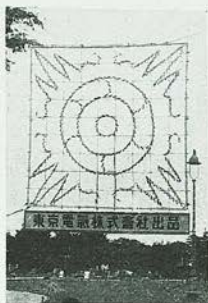
我社では新案になる閃光ネオン管と内面着色電球を併用してマツダラ



我が社の出品サイン

ンプのサインを作り出品した他、東京市電のマークを表したネットサインを参考出品として建てた。

今回の催は東京市に於ては第三回目の催で、第二回に比較するとその進歩は實に驚嘆に値するものであった。この展覧會の出品サインの審査は、石川文吾氏、鯨井恒太郎氏、森井健介氏、中川清氏、太田原俊氏、小野二郎氏、井下清氏の諸氏によつて行はれ、我社出品の「マツダランプ」



我が社の参考出品

のサインは一等に入選した。

國産品 輸入品 對比展覧會

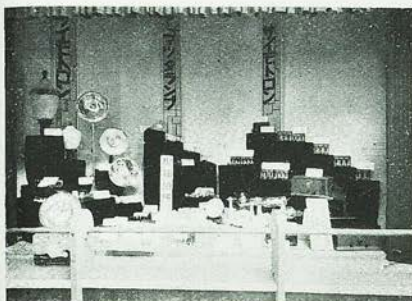
國産品輸入品對比展覧會は、東京府、東京市、日本商工會議所の共同主催で、六月十六日より二十二日まで

で東京商工獎勵館に開催された。

此の種の展覧會は一昨年來數多く各地に開かれたが、この展覧會は從來の催と趣を異にし、商工省に於て優良國産品として選定された物のみに限つたので、我社では先に商工省より優良國産品として推選された『ギバ太陽燈』の各種と、獨乙製ハナウ太陽燈の同型のものとを對比して出品したのであつた。

北海道拓殖博覧會

昨年内に開催された博覧會中大規模なものとして、第一に指を屈すべきは『國産振興北海道拓殖博覧會』である。此の博覧會の開催期間は七月十二日より八月二十日までの四十日間で、北海道廳、札幌市役所、札



北海道拓殖博覧會の我が社の陳列

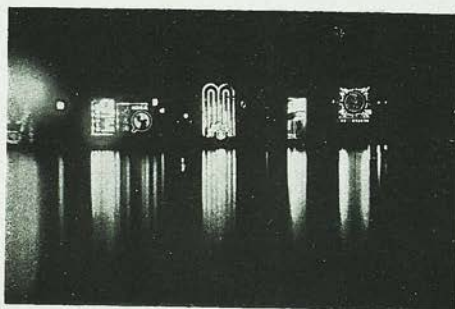
幌商工會議所等の共同主催にかゝり商工省後援のもとに、札幌市の東南に位する中の島公園に於て開かれたのであつた。

出品物としては北海道の産物は勿論のこと、内地各府縣の出品に加へて樺太、朝鮮、臺灣より出品され、國産振興の名實共に備つた大博覧會で、入場者数は會期中四十萬人と豫測されてゐたのが、事實六十八萬人を越へて頗る大盛況を極めた博覧會であつた。

電燈設備は北海水力電氣株式會社に於て施行され、館外裝飾には全部本社のサイン電球が點火されて、其の數約六千個、館内用電球には我社のH.C.電球が採用された。

我社の出品物は神奈川縣館に陳列され、主要製品たるマツダランプ各種、ラヂオ真空管サイモトロン各種、配線器具、屋内照明器具、街路照明器具、パイタライトランプ、閃光電球、ラヂオセット等で、陳列裝飾にはバックに光の色彩を點滅せしめたもので、觀衆の眼を著しく惹いてゐた。同博覧會では弊社は國産優良賞を受領したのであつた。

札幌電氣サイン展覧會



札幌市中の島公園の電氣サイン展

札幌電氣サイン展覧會は、東京商工會議所、札幌商工會議所の共同主

催、北海水力電氣株式會社、照明學會北海道支部の應援の下に、別記北海道拓殖博覧會々期中開催されたものである。展覧した電氣サインは、東京市日比谷公園に開かれた際のもので、弊社を始め八商店會社の出品サインは、中の島池畔に設置され、夜間は燦然として水面を彩り、その眺は絶佳であつた。

これ等の電氣サイン觀覽者は齊しく本邦に於ける電燈照明の精華にみとれ、科學の進展に驚異の眼を輝かさぬものはなく、頗る大成功裡に終始したのである。

照 明

東京驛前のマツダ交通整理燈

多年の懸案とされた東京驛前の交通整理も、交通状態が餘りに複雑な爲め、適當な案もなく悩みの種となつてゐたが、今回警視廳交通課の立案と、本社の努力に依つて漸く解決する事が出来た。即ち六方向の交通を中央式と側柱式の信號燈を併用して、一つのコントローラーに依つて自動的に動かす式のもので、部分的同時式整理法とも考へられ、いづれの方向の交通に對しても非常に解り易く、交通の交叉に依る混亂なども起らなく、一般に好評を博してゐる。(伊藤生)

奴茶屋のネオンサイン

道頓堀のカフェー奴茶屋の新建築は思ひ切



東京驛前のマツダ交通整理燈

つた新しいデザインであるが、ネオンサインも亦思ひ切つた大膽さを示して居る。寫眞では表と横側しか見えないが、裏にも亦ネオン

サインがついて居て、建物の外面全部がネオンで裝飾せられて居り、道頓堀でも異彩を放つて居る。



道頓堀の奴茶屋のネオンサイン



銘酒キンバイの縦書のもは赤色、横書のもは淡緑色ネオン、奴茶屋は青色、YACCOは淡緑色、CHAYAは緑色ネオンで、建物を囲むボーダーは赤色ネオンである。ネオン管の延長四百尺に及ぶ。(右上)

銘酒「澤之鶴」と紅蘭亭ネオン

「澤之鶴」を以て古くから知られて居る右



崎株式會社は此度老舗の殻を脱して大阪平野町に堂々た



澤之鶴と紅蘭亭のネオン

日本簡易火災保險の新築工事は最近竣工し大阪堺筋の長堀河畔に新装を示して居るが、其看板に寫眞の通りの大規模のネオンが設置せられた。一文字六尺角の八文字に配するに青色ボーダーを以てし、看板の大きさ六尺×六三尺といふ大きいもので、ネオン管の延長三七〇尺に及ぶ。此の外に赤、青、緑の各色ネオンで作つた美しい同社の星型マークがある。心齋橋、四ツ橋の橋上から明らかに見へ、マークは水面に映えて美しく輝いて居る。

日本簡易火災保險のネオンサイン

は赤色文字で、「さはのつる」は青色、後者とマークは乳色ペラ硝子張溝型内にネオンチューブを納め、非常に感じが好く出来て居る。マークは赤色である。

「紅蘭亭」ネオンは此の澤之鶴ビル内にある支那料理店に取付けられたもので、紅蘭亭は赤色、支那料理は青色を使用し、書體は寫真でわかる様に、支那式の面白い趣をあらわして居る。

(右上)

銘酒「富久娘」のネオンサイン

大阪戎橋南詰、美人座、ユニオン、日輪等のカフェーの電飾、其の他の大サイン燦然た



簡易火災のネオン



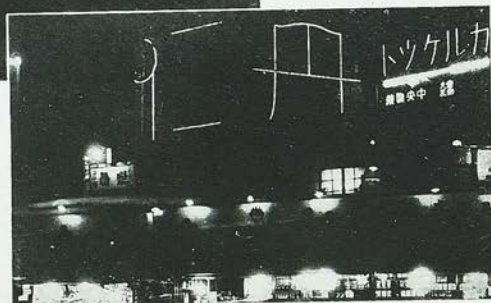
富久娘のネオン

中合はせについて居るのであるが、「富久娘」と「酒、フクムスメ」は赤色ネオン、「銘酒」と「ハ」は青色ネオン管を使用して居る。(右上)

大阪驛前「仁丹」のネオンサイン

仁丹が従来電球サインを全國到る處に數多く取付けられて居る事は周知の事であるが、最近はこのネオンに改造或は新設中であつて、東京電氣の製作に成る新設ネオンサインの中、寫眞に示す大阪驛前のサインなどは大きい方である。茲に本誌に紹介したカルケツトサインの隣であつて、サイン面に次の三種類のネオンサインがついて居る。

イ、煉と粉の仁丹



大阪驛前仁丹のサイン

齒磨、仁丹
石鹼
ロ、仁丹
香錠、小粒
銀粒の懐中

藥仁丹

ハ、仁丹 (大文字)

點滅によつて右の三種類が交互に現はれる。かういふ風に三重のサインを同一面上につけたのは珍らしい事である。寫眞にはロが缺けて居る。ネオン管は四三〇尺も使つて居る大サインである。(石上)

製品

D—三〇型積算電力計

(新發賣)

吾社が積算電力計を製作開始してより二十餘年、現在では國產積算電力計の大量生産を行つて居る本邦唯一の會社であることは御承知の通りである。

今回多年の經驗と優秀な技術を應用して、三相不平衡用積算電力計D—三〇型の製造を開始し、二月一日より發賣することとなつた。

本計器は現在市場にある何れの三相電力計と比較するも品質優秀、價格低廉であつて、

一度御使用下されば直ちに判明されることと確信する。

製作範圍は電壓は一〇〇—二二〇ヴォルト
電流は三—三〇アンペア、周波数は五〇—六〇サイクルである。

其の他の一般的の資料は左記の通りであつて、此の數値は多數試験した計器の平均値を示したものである。



D—30 型

規定電壓に於ける全負荷の廻轉力

七六ミリメートルグラム

廻轉部の重量

三グラム

廻轉力と廻轉部との比

二—一

圓板の速度(毎分)

二九—三回

圓板一廻轉のワット時

二ワット時

規定負荷に於ける電壓線輪内損失

一ワット

全負荷に於ける電流線輪内損失

一〇・八ワット

電流線輪の電位差

〇・二ヴォルト

全負荷に對する始動電流の割合

〇・一%

規定電壓に對し無負荷廻轉せざる

電壓の割合

一・二倍以上
溫度係數(全負荷位相—攝氏二度毎に)

(+0.07%)



UX-109

新型サイモトロンの發賣

左記新型サイモترون三種を二月一日より發賣することになった。
 (一) サイモترون UX-109 (定價二・二〇〇)
 此の真空管は電力配給の不充分な地方に於

ラヂオ

同	(誘導負荷)	攝氏一度毎に)
同	(輕負荷位相二攝氏一度毎に)	(一〇・三〇四〇)
同	(輕負荷位相二攝氏一度毎に)	(十〇・八五〇〇)
全負荷調整範圍		三・五〇
同上微動調整範圍		三・五〇
輕負荷調整範圍 (二十分の二)		四・〇〇
位相調整範圍		六・〇〇
キロワット指示裝置の種類	數字	三〇ミリメートル
計器の全長		一〇〇ミリメートル
計器の全幅		一〇六ミリメートル
計器の全高		三六七 キログラム
計器の全重量		

て用ひる乾電池式ラヂオセット又は携帶用乾電池式ラヂオセットに用ひる、所謂低ワット型萬能真空管であつて、電力消費料極めて少く、同時に所謂マイクログフォニック・ノイズと呼ばれる真空管の震動による雑音がない。

フイラメント電壓	一一・三ヴォルト
フイラメント電流	〇・八(ミリアンペア)
增幅率	八五
内抵抗	一、六〇〇オーム

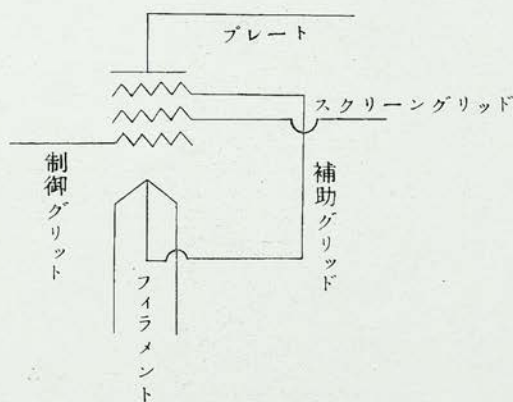
(イ) 增幅に使用の場合

プレート電壓	四九・九ヴォルト
グリッドバイヤス	〇・四五ヴォルト
プレート電流	一七五—三〇(ミリアンペア)
(ロ) 檢波に使用の場合	
プレート電壓	三〇—四九ヴォルト
グリッドリーク	〇・三五—五〇(メガオーム)
グリッドコンデンサー	二五(マイクロマイクロファラッド)

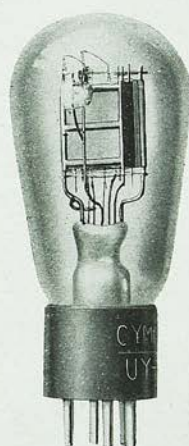
(二) サイモترون UY-247 (定價四・〇〇〇)

此の真空管はペントリード(五極真空管)の花形である。ペントリードはスクリーニンググリッド真空管の一種であつて、プレートとスクリーニンググリッドとの間に補助グリッドを挿入しこれを真空管の内部でフイラメントに接続したもので、能率のよい點では從來の低周波二

次の通りである。



ペントリード真空管の構造



UY-247

段と此の真空管使用の一段増幅とが殆んど同じ音量を出すのである。此の真空管の規格は

フイラメント電壓	二五ヴォルト
フイラメント電流	一五アンペア
プレート電壓	二五(ヴォルト)(最大)



スクリーニングリット電圧

二五〇ヴォルト (最大)

プレート電流

三ミリアンペア

スクリーニングリット電流

七五ミリアンペア

内抵抗

三、〇〇〇オーム

増幅率

九五

相互傳導率

二、五〇マイクロモ

負荷抵抗

七、〇〇〇オーム

出力

二五ワット

尙此の真空管のプレート電圧對プレート電

流は、在來の三極真空管と異つてゐるので、

其の使用法を誤まると高音部ばかりが強くな

り、低音部が消えてしまふ傾向がある。

(三) サイモトロン UY 二二五 (定價四・〇〇)

此の真空管はヴァリアブルミュー又はス

パークントロール真空管と稱せられ、高周波

増幅用の新型スクリーニングリット四極真空管

である。この真空管は最初スーパードロダ

インの中間周波増幅用に作られたもので、一

般の高周波増幅管としても極めて優秀な特性

を有して居る。即ちモヂュレーション・デス

トーション、クロス・モヂュレーション、ハ

ム・モヂュレーション等の障害を除去するこ

とが出来、従つて或る意味に於て UY 二二四

の特性を改良したものと云ふことが出来る。

此の真空管の規格は次の通りである。

フィラメント電圧

二五ヴォルト

フィラメント電流

一七五アンペア

プレート電圧

三〇 (最大) — 一六〇ヴォルト

スクリーニング電圧

九〇—七五ヴォルト

グリッドバイヤス

負三〇—一五ヴォルト

増幅率

三〇—三六五

内部抵抗

三〇、〇〇〇オーム

相互傳導率

一、〇〇—一、〇〇マイクロモ

プレート電流

六五—五八ミリアンペア

サイモトロン定價一部改正

サイモトロンのうち左記の真空管の定價を

二月一日より變更いたしました。

サイモトロン種類

新定價 舊定價

UY 二二四

三・〇〇 (四・五〇)

UX 二四五

三・〇〇 (三・五〇)

KX 二八〇

二・五〇 (三・五〇)

照明學校

十二月中の參觀者

十二月は年末の爲め照明學校參觀者は少く
左記一八五名であつた。

主なる團體參觀者

山手電氣會社特約店員

東京鐵道局

東京市濱町小學校長日野氏他

埼玉縣師範學校教諭内田氏他

米澤高等工業學校

一般參觀者

十二月中參觀者合計

一八五名

最近五ケ年間の參觀者

尙昭和六年度の參觀者總數は三三、六〇四
名であつて、照明學校設立以來の統計は次の

如くである。

昭和二年

二、一八四名

昭和三年

六、四一三名

昭和四年

七、八五六名

昭和五年

七、二八七名

昭和六年

九、八六四名

合計

三三、六〇四名

一ヶ月平均
一ヶ月平均

六、七二一名
五六〇名

雑 報

エチオピア特使の本社見學

エチオピア特派使節同國外務大臣ヘルイ氏一行は、國賓待遇を辭退されてから、日本に於ける有数の會社工場を見學することとな



照明學校に於けるエチオピア特使一行

り、十一月十三日午前十一時半から來社、山口社長の案内にて硝子工場、電球工場、研究所並に照明學校を熱心に參觀され、本社食堂にて中食を済まされた後、横須賀軍港の見物に向はれた。

マツダ閃光電球の好評

マツダ閃光電球の發明は夜間及び室内の寫真撮影に、マゲネシウム如く不愉快な煙や爆音を發せず、且つ絶対に危險を伴はないため、從來撮影を禁止されて居つた場所が、次ぎ次ぎと其の門戸を開かれるに至つた。

最近に於てはマゲネシウム使用禁止のため殆ど撮影不可能であつた宮内省及び貴族兩院内に於ても、マツダ閃光電球使用に限り寫真撮影が許可せられた。斯くの如きは寫真界のみの喜びではないと思ふ。

『思ひ出多き女』のスナツプ

昔ねく口ずさまれてゐる流行唄『酒は涙か溜息か、心の憂さの捨てどころ……』を主題歌として作られた映畫『思ひ出多き女』のスナツプが、先日蒲田の池田監督から贈られて來たから、御覽に入れる。

寫眞の右側に立てられてゐるのが廿四時のサンスバットで、最近の撮影は白熱電燈で行

はれてゐる。寫眞は此の映畫の監督をされた池田義信氏と、映畫の主演者栗島すみ子さん



栗島すみ子さんのスナツプ

の御夫婦で、撮影の余暇に撮られたものである。(A 生)

海 外

董外線により産卵率の増加

米國ミヅリー州コンコルディアの一農園で牝雛鶏を百八十羽宛二群に分け、食物や換氣などを全然同一状態にして二ヶ月間続け、それから一方の群には毎日二時間宛チーイーのサンランプで董外輻射をあたへた處が、一ヶ月經過の後の産卵量は、サンランプを點じない方は一三%の増加、點じた方は實に九二%の増加を示した。此場合一三%の増加は當時

の好天氣に恵まれたものと見られるから、董外輻射によつて七〇%の産卵増加を見たとしても過言ではなからう。

モダンアメリカ住宅の照明

カリフォルニア州ロスアンゼルス市のデムシレフ氏は、西班牙風の自宅に溢光照明装置を



モダンアメリカ住宅の溢光照明

施したが、それに用ひられた電球は二五〇ワット四個、四〇〇ワット一個で、投光器にはアンバー色のレンズを用ひたため、金色の光が非常に美しく落着いた感じを與へ、通行人の眼にとまつたと云はれて居る。

友人でも夜間訪問の際は、美しく照明され



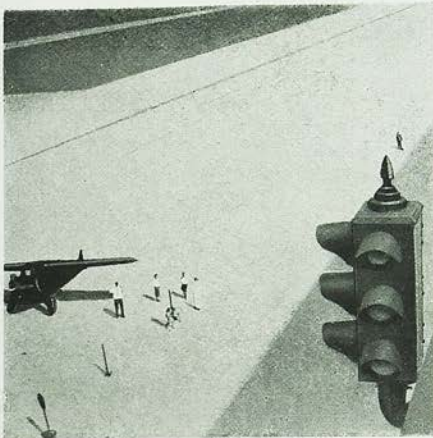
モダンアメリカ住宅の玄関

た玄関は恰も歓迎の誠意を表して居るやうであるが、此の明りは二個のストリップ・ライントにレンズをつけて、入口の各側面のタイル床の中に入れて照明させるのである。

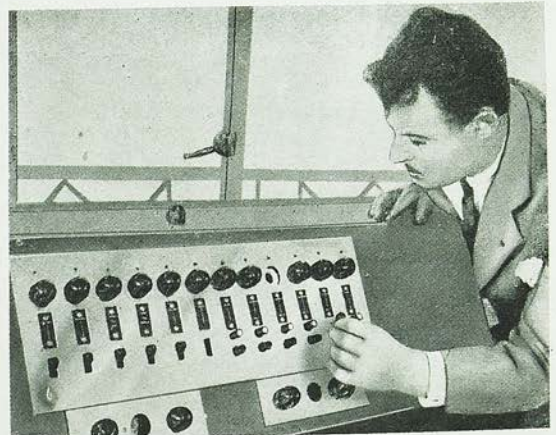
航空港の電気設備

紐育のフロイド・ペンネット航空著陸場が近頃出来上つたが、其の電気設備は些か新し味がある。即ち著陸場照明の制御は高い塔の上から行はれ、そこにあるパネルによつて場内全部の溢光燈及び標示燈が點滅され、更に交通管制燈方式も同時に採用されて、其の色燈の點滅によつて自動車其の他に方向を示し

て居る。



著陸場の自動車の色彩制御



塔上の著陸場照明の制御パネル

水仙

お互に三十年も知合つてゐる舊い親友が四人、何處かで、年暮に夕飯を食べようぢやないかと、ハガキで相談をして三十日に日を定め、丁度その時分、湘南の自宅から出京してホテルに泊つてゐたエムの處へ落合ふことになつてゐた。

約束の五時過になつて、四人の顔が揃つた。

「どこにするか。」

「さあ、僕は何處でもいい、んだが。」

「支那料理にしようぢやないか。」

「それでもいい。」

「支那料理も珍らしくないなあ。僕は鳥料理の方がいい。」

「鳥料理といふやつが、いやに高いばかりで、案外つまらないものだよ。」

「料理は何でもいい、んだ。僕は、どちらにしたつて、さう食べないから。」

「シイが考込んだやうにいふと、

近松秋江

「さうだ。年を取ると、もう何を食べても、そんなにうまくない。支那料理だつてあまり食べたくない。」

エムが思入つたやうにいつた。

エムもシイももう五十を四つ五つ越してゐた。

「ぢや止すか。」

一番年上のケイが、ふざけるやうにいつた。ケイはもう六十を出てゐたが、氣はまだ若かつた。

「こゝで茶だけ飲んで別れるか。」

ケイに次いで年上のエスが笑つた。

「うむ、それでもいい、んだ。何處にいつたつて、此處のホテルよりいゝ處はないだらう。」

シイはその氣になつていつた。

「ぢや、此處の食堂にしよう。」

ケイがいふ。

「それでもいい、けれど、それぢやエム君が詰らないだらう。」

エスがいふ。

「ナニ、詰らないなんて、そんなことはない。何處にいつたつて、どうせ詰らないんだから。」

エムは鼻の尖で笑つた。

「晩翠軒なら、こゝから近いだらう。」

「運動がてら歩いて行くか。」

「いや、外は寒いよ。」

それから四人は、たうとうおみこしを上げて日比谷の通りに出た。風はないが、静かな夜氣が頬を斬るやうに寒かつた。

「お、寒い。」

シイは身ぶるひするやうにいつた。

「これをあてると、いくらか樂だ。」

ケイは、懷中からマスクを取出した。

「それも、好い加減なものだ。」

エムがいふ。

「やつぱり元氣がい、んだよ。君は。」

少し歩いて行くうちに、シイは、圓タクを呼留めた。

「は、あ、君はしきりに圓タクに乗りたがるな。」

エスは笑つた。

「でも、寒いからな、お互に、もう老境に入つて、こんな寒い晩外を歩いて風邪でも引いたら、取り返へしがつかぬ。」

それから四人仲よく圓タクに乗つた。

晩翠軒はすぐである。

狭い部屋に通されて、定まりきつた支那料理で、格別、はづんだ面白い話もなく、又誰れも酒を飲まぬので、つまらなくさつたと食事を済ました。

「何だか詰らないなあ。皆な手を取ると、こんなものかねえ。」

シイは、聊つやうにいつた。

「うむ………いくらでも面白いことがあるさ。」

一番年長のケイは、シイに賛成であつたが、詰らないことに反抗するやうにいつた。

「これからダンスにでも行くか。」

エスは軽く戲弄ふやうにいつた。

「行つてもいいさ。君達その元氣があれば行かう。」

ケイは、勇氣づけるやうにしていふた。ケイは六十を越す老境に入つても、モダンボーイやモダンガールに伍して、老の到るを忘れたるもの、如くダンスホールに入り浸つてゐることは、彼等の仲間ばかりでなく、ケイの職業上に於ける名の知られてゐると殆ど同じ範圍に逼り知られてゐることであつた。尤もケイは、數年前、三十年糟糠の妻に亡くなられてから、晩年の家庭的が、ひどく寂しかつた。他の三人は誰れも、その點はまだ無事であつた。

「君達がダンスをやるといふんだがなあ。」

ケイは、人の顔さへ見れば、ダンスを勧めるのであつた。

ところが、又三人が三人とも、そんなことに乗り出しさうになか

つた。中でシイは、そんなことに向いて居りさうに人から見られるのであつたが、これが一向そんなことに興味がなかつた。

「僕も一と年若かつたら、ダンスはダンスだが、踊りはやつてみたかつたが、もう遅い。」

「さうだねえ、君はそつちの方だね。エスがいつた。」

しかし、やつぱり話はあんまり弾まなかつた。はづまないけれども、このまゝ、食事をして、別れてしまふのでもなかつた。何か知ら一所に居つて話してゐる方がよかつた。

「銀座の年の市でも見ようか。」

誰れかゝいふと、皆なそれに同意した。

それから又圓タクに乗つて銀座へ出た。千疋屋の前で自動車を下りて、夜店の竝んだ歩道をぶら／＼歩いた。

「何處かへ寄つて、茶でも飲まふぢやないか。」

「いゝだらう。」

「サロン春にでも入つてみるか。ケイが誘ふやうにいつた。」

「チツプが要るだらう。」

「それは、少しは要るねえ。」

「いくらくらゐるやるものかねえ。」

「まあ五圓だねえ。」ケイがいふ。

「つまらない。」シイがいつた。

その間にエスとエムは、すん／＼先きに行つてしまつた。銀座の歩道は、電車を背にして歳の市の露店が景氣を引立てるやうに竝

んでゐた。梅の盆栽や寒木瓜には、もう蕾が開きかけてゐた。神饌具や雜煮箸を賣る店も、毎年のことながら、見るから氣分を刷新するもの、やうに思はれた。四人は、誰れも買物するのでもなかつたが、そんなに老境に入つてゐても、やつぱり、そんな人景氣の中を歩いてゐると悪い心持ちはしなかつた。

リオン喫茶店の前まで來た時に、

「こゝへ入つて休むか。」

と、たれが發議したともなく云つて、そこへ入つた。内は兩側も中央の椅子も殆ど空席がなかつた。やつと一ヶ處空いてゐる處を見附けて、そこへ向ひ合つて腰をおろした。

紅茶、ソーダ水、たゞの水、いろんな物を命じて、そこで三十分、さういふ處の空氣を味ふともなく、そこに浸つてゐた。

「又、ホテルにでも行くか。」

後を引くことの好きなケイがいつた。

エムは、ホテルに泊つて居るのだし、エスも年末の氣持は閑氣であつた。たゞシイは、子供がもう十日ばかり前から氣管支カタルで寢てゐるのが、今朝から三十九度の熱であつた。

「いつてもいいが、子供が寢てゐるので。」

「よく病氣するねえ、弱いんだなあ。」

エスがいつた。エスはもう、三人の子供が、嫁にいつて、孫が小學校に行く年になつたり、大學を卒業して學士になつたりしてゐるのであつた。

「うむ、困るよ。」

「なに、そんなに心配するものでもないよ。」

六人もの子供を大きくしたケイは、篤方なく諦めたやうにいつた。ケイは子供と一所にダンス場に出掛けることもあつた。家にはもう三四年も不治の病に臥してゐる中學卒業年齢の子供もあつた。

その中でエムばかりは子供がなかつた。それゆゑ、そんな會話には興味も同感もなかつた。

「まあいゝさ、子供は癒るよ。ホテルに行つて、もう少し話さうぢやないか。」ケイはいつた。

「まだ八時半だ。」

エスは、自慢の、精確な、金側の懐中時計を帶の間から取出していつた。

「うむ、時間はまだ遅くない。いつてもいい。いかう。」

シイは軽く尻を持上げた。

銀座の横町から、すぐ目と鼻との間であるホテルの北口まで又々

茶の室の隅に、鎌田の家族が居る時のやうに置炬燵がしてあつた。

「おゝ、炬燵があるな。」

鎌田は軽く食事をすまずと、いきなりそれへ脚を入れた。

「おゝ、暖い暖い。」

三月の初で、例年のとほりに餘寒がきびしく身にしみた。鎌田は炬燵の上で新聞を披い

クシイに乗つた。

ホテルのホールでは、外國人の男女があちらでも、こちらでも、テーブルを圍んで靜かに會話を樂んでゐるもの、やうに見えた。

「やつぱり此處が一番好いぢやないか。此の年になつても、まだ物好きに、銀座の夜風を涼んで歩くより、こゝで會話を樂むのが一等ぢやないか。」

シイは、いつた。

四人の雑話は、それから又暫らくつゞいた。何を話すといふ目的もなく、何にこだはる主張もなく、偶には自分達の職業に關係のある出版界や、ジャーナリズムのこと、小説の語文學談等もあつたが、それにも際どい主義や主張もなく、實に淡々として水の如きものであつた。

見ると、中二階づくりの如くなつてゐる、ライト式の石の建築用材の上に、支那水仙の水鉢が一つ載つてゐた。

「おう、もう水仙が開いてゐる。こゝは暖いから。」

てみたり、諸商人に支拂ふ帳面などを繰つてみたりしてゐた。

「あなたも少しお温まんなさい。」

鎌田は、そこに立つてゐる光子に言葉をかけた。下に居て、立つてゐる光子を見ると大柄な彼女が一層立派に見えた。

彼女は、只「えゝ」といつたきりであつた。お互に兩方で遠慮深くなつてゐた。

しかし鎌田の出やうによつては、光子は、どちらにでもなるのであつた。といふのは、彼女の徳操が堅固でないといふのではなく、鎌田の家庭の内情をよく知つてゐる彼女の判斷によつて見ても、鎌田が、さういふ手段を選ぶのも強ち無理ではないと思ふのであつた。

文藝春秋昭和六年一月號所載

近松秋江作『異なもの味なもの』より

編輯後記に代へて

『きさらぎ』と云ふと如何にも寒さうに聞へるが、今年の冬はなんだか本當に冬になつたと思へぬほどの暖かさである。もう立春もすぎたのであるから、春とも云へるのであらう。

例年寒明けの方が寒さが厳しいならわしになつて居るので、何となしに氣抜けがする。やはり寒い時は寒くないと、なんだか身體が引き締らないので物足らない感じがする。

二月と云ふ聲を聞くと寒さと思ふと同意語のやうに、梅の花を想ひ、紀元節が心に浮ぶ。

近頃では紀元節と云ふよりも建國祭と云ふ言葉の方が勢力があるやうになつて來た。いづれにしても日本の建國に想倒するのであらうから、大いに祝ふと同時に國家多事の際、猶一層の深い省察が八千萬の同胞の心に湧かんことを祈る。

昭和七年 二月十五日印刷定價 一部三十五錢
二月二十日發行 二部四圓
(郵送料共)

東京電氣株式會社
編輯兼 米山清三
發行人 守岡功

東京市本所區厩橋一丁目廿七ノ二
印刷所 凸版印刷本所分工場

東京市本所區厩橋一丁目廿七ノ二
發行所 東京電氣株式會社

電話 三五六一 三五六五
大森三六三三 三六五四
振替口座東京 三八九四四

電話 三五六一 三五六五
大森三六三三 三六五四
振替口座東京 三八九四四

出張所

東京	大阪	京都	金澤	名古屋	仙臺
事務所 東京市芝罘区日ノ四(新橋際) 電話 銀座一 五五七九 五五七〇 銀座店 東京市銀座五 五五七〇 新宿店 東京市新宿三 五五七〇 大坂市西淀川區大東町二ノ四 電話 土佐堀(44) 六三〇五 五五五一 京都市下京區四條通御旅町四三 電話 本局 二九六一 二八四四 金澤市片町一 五五七〇 廣島市中區新柳町八 五五七〇 名古屋市中區新柳町八 五五七〇 住友電氣本局 五五七〇 仙臺市大町五丁目一 五五七〇	大坂市西淀川區大東町二ノ四 電話 土佐堀(44) 六三〇五 五五五一 京都市下京區四條通御旅町四三 電話 本局 二九六一 二八四四 金澤市片町一 五五七〇 廣島市中區新柳町八 五五七〇 名古屋市中區新柳町八 五五七〇 住友電氣本局 五五七〇 仙臺市大町五丁目一 五五七〇	事務所 東京市芝罘区日ノ四(新橋際) 電話 銀座一 五五七九 五五七〇 銀座店 東京市銀座五 五五七〇 新宿店 東京市新宿三 五五七〇 大坂市西淀川區大東町二ノ四 電話 土佐堀(44) 六三〇五 五五五一 京都市下京區四條通御旅町四三 電話 本局 二九六一 二八四四 金澤市片町一 五五七〇 廣島市中區新柳町八 五五七〇 名古屋市中區新柳町八 五五七〇 住友電氣本局 五五七〇 仙臺市大町五丁目一 五五七〇	事務所 東京市芝罘区日ノ四(新橋際) 電話 銀座一 五五七九 五五七〇 銀座店 東京市銀座五 五五七〇 新宿店 東京市新宿三 五五七〇 大坂市西淀川區大東町二ノ四 電話 土佐堀(44) 六三〇五 五五五一 京都市下京區四條通御旅町四三 電話 本局 二九六一 二八四四 金澤市片町一 五五七〇 廣島市中區新柳町八 五五七〇 名古屋市中區新柳町八 五五七〇 住友電氣本局 五五七〇 仙臺市大町五丁目一 五五七〇	事務所 東京市芝罘区日ノ四(新橋際) 電話 銀座一 五五七九 五五七〇 銀座店 東京市銀座五 五五七〇 新宿店 東京市新宿三 五五七〇 大坂市西淀川區大東町二ノ四 電話 土佐堀(44) 六三〇五 五五五一 京都市下京區四條通御旅町四三 電話 本局 二九六一 二八四四 金澤市片町一 五五七〇 廣島市中區新柳町八 五五七〇 名古屋市中區新柳町八 五五七〇 住友電氣本局 五五七〇 仙臺市大町五丁目一 五五七〇	事務所 東京市芝罘区日ノ四(新橋際) 電話 銀座一 五五七九 五五七〇 銀座店 東京市銀座五 五五七〇 新宿店 東京市新宿三 五五七〇 大坂市西淀川區大東町二ノ四 電話 土佐堀(44) 六三〇五 五五五一 京都市下京區四條通御旅町四三 電話 本局 二九六一 二八四四 金澤市片町一 五五七〇 廣島市中區新柳町八 五五七〇 名古屋市中區新柳町八 五五七〇 住友電氣本局 五五七〇 仙臺市大町五丁目一 五五七〇

札幌	福岡	小倉	臺北	京城	大連	哈爾濱	上海
札幌市南二條通西四丁目 電話 本局 九八八 北門電話 九八八 福岡市天神二丁目八 電話 二二六 二九七八 四七五 小倉市大工町 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 臺北市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 京城市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 大連市大連街 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 哈爾濱市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 上海市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五	札幌市南二條通西四丁目 電話 本局 九八八 北門電話 九八八 福岡市天神二丁目八 電話 二二六 二九七八 四七五 小倉市大工町 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 臺北市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 京城市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 大連市大連街 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 哈爾濱市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 上海市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五	札幌市南二條通西四丁目 電話 本局 九八八 北門電話 九八八 福岡市天神二丁目八 電話 二二六 二九七八 四七五 小倉市大工町 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 臺北市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 京城市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 大連市大連街 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 哈爾濱市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 上海市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五	札幌市南二條通西四丁目 電話 本局 九八八 北門電話 九八八 福岡市天神二丁目八 電話 二二六 二九七八 四七五 小倉市大工町 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 臺北市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 京城市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 大連市大連街 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 哈爾濱市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 上海市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五	札幌市南二條通西四丁目 電話 本局 九八八 北門電話 九八八 福岡市天神二丁目八 電話 二二六 二九七八 四七五 小倉市大工町 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 臺北市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 京城市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 大連市大連街 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 哈爾濱市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 上海市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五	札幌市南二條通西四丁目 電話 本局 九八八 北門電話 九八八 福岡市天神二丁目八 電話 二二六 二九七八 四七五 小倉市大工町 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 臺北市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 京城市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 大連市大連街 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 哈爾濱市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 上海市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五	札幌市南二條通西四丁目 電話 本局 九八八 北門電話 九八八 福岡市天神二丁目八 電話 二二六 二九七八 四七五 小倉市大工町 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 臺北市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 京城市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 大連市大連街 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 哈爾濱市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 上海市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五	札幌市南二條通西四丁目 電話 本局 九八八 北門電話 九八八 福岡市天神二丁目八 電話 二二六 二九七八 四七五 小倉市大工町 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 臺北市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 京城市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 大連市大連街 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 哈爾濱市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五 上海市大馬路 電話 本局 二二六 二九七八 四七五

本年になつて東京で雪らしい雪が降つたのは、二月九日の夜から十日の朝にかけての一回のみで、それもすぐ消えるやうな淡雪に近いものであつた。こんなに雪の少ない年は稀らしい。

停車場に掲げてあるスキー地だよりを見ると、雪の名所の越後の高田あたりが雪が殆んどないやうな有様だ。雪は豊年の貢と云ふが、こんなに降らなくては、なんとなしに雪が戀しくなる。

本誌巻頭には京都帝國大學の藤井工學博士の『住宅の照明に關する私案』を掲載したが、博士が和紙を用ひて作られた照明器具に電燈を採用して居られる點は、日本趣味を解せらるゝ方々には、最もよい參考になることと思ふ。

殊に日本間の照明器具には誰れも困り抜いて居る際に、此の一文は種々な意味に於て、讀者を益することが多大のものであらうと期待して居る。

酒田町電氣部菊地技師長の『電燈從量供給による二つの考案』は、實際の數字を用ひて晝夜間從量制の採用と、最低責任使用料金の存廢についての深い御經驗を述べられて居られる。

鐘ヶ江永松氏のバイタライト・ランプの照射による同氏夫人の肋膜炎の恢復は喜ばしい至りであつて、お知合の同病者に御吹聴の程を願います。

土居巖井氏の『夜のスポーツ』も興味のみでなく本年は是非照明界のため新開拓を施したいと思ふ。赤堀彌作氏は廣告課から電球課に抜擢榮轉されたが、昨年中擔當された催物の總決算の意味で、昭和六年博覽會一束を書かれたのである。

バイタライト・ランプをロードビルダーとしての電燈會社増收策の懸賞論文も十三篇の應募があり、審査結果を發表しましたから御一覽を願ひます。